教育課程： 基盤教育科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	2(30)	必修

健康行動学

担当教員（担当形態） ：重川敬三（単独）

授業の目的	現代人の行動特性が生活習慣病等の増加に関与し，「健康」にどのような影響を及ぼしているのかを理解する．また，よりよい健康行動を再確認することによって QOL の維持および向上のために必要な方法を学ぶ．そして，看護を通した援助の側面から学際的に基礎科学と臨床科学を一体化し，健康の理解と解決のあり方について学ぶ．

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	健康の定義－physical health と mental health , social health について－	講義	事後：資料を読み，振り返る(30 分)
2	健康の概念－spiritual health の意義と a dynamic state の意味するところ－		事後:1~2 回のレポート課題(60 分)
3	柔軟体操を通して人の姿あるいは姿勢の保持を実践する	演習・実技	各回の事後学習：配布資料を読み，振り返る(30 分)
4	人の身体活動における心肺機能の応答と運動の強度およびその評価について	講義	
5	身体活動と循環器系の応答について		
6	秋田市の取り組み「歩くべ！あきた！」を実践する	演習・実技	
7	日常生活に必要な体力とその維持および向上の方法について	講義	
8	レクリエーションゲームを通した身体活動の実際について	演習・実技	
9	メタボリックシンドロームと生活習慣および身体活動量について	講義	
10	バレーボールを用いた身体活動の実際	演習・実技	
11	生活習慣病と食事の傾向について	講義	
12	身体活動と血糖コントロールの関わりについて		
13	バスケットボールを用いた身体活動の実際	演習・実技	
14	ラケット種目を用いた身体活動の実際		
15	生活習慣改善のための健康行動の適応について	講義	

到達目標	現代人の行動特性から，「健康」の維持に不可欠な要素を，実践および行動に結びつけて説明することができる．また，QOL の維持および向上にむけた日常を実践できる．さらに，患者の健康回復に向け，より良い支援に応用することができる．									
DP 要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	
評価方法･基準	授業への参加度３分の２以上の学生を対象に，試験 60%（６０点満点）とレポート評価 40%（A４０点・B３０点・C２０点）により評価する．									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	学習相談は，メールで受け付け回答する． レポートは次回の講義にて解説する．									
その他注意等	なし									

テキスト	なし
参考文献	・「健康と霊性」小田晋 他　宗教心理（2001） ・「スポーツ文化の脱構築」稲垣正浩　叢文社（2001） ・「美しく立つ」渡會広治　文光堂（2007） ・「乳酸をどう活かすか」八田秀雄　杏林書院（2008）

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	2（30）	必修

心理学概論

担当教員（担当形態） ： 齋藤和樹（単独）

授業の目的	1. 人間の心を研究する心理学の基礎として知覚、記憶、知能、学習、感情、性格、集団心理、発達、適応について学習する。 2. 看護研究で心理学的方法を使うときに備えて、心理学的研究方法の基礎的事柄を学ぶ。 3. 心理学の応用としてカウンセリング、患者と看護職の心理と人間関係の基礎について学ぶ。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	オリエンテーション、心理学の対象・小史・心理学の領域を学ぶ	講義	教科書第 1 章の予習（20 分）復習（20 分）
2	心理学の研究方法を学ぶ（Quiz１）	Quiz1 講義	教科書第 1 章と QUIZ１の復習(30 分)。第 2 章を予習(15 分)。
3	知覚：人間は感覚刺激をどのように取り入れるのかを学ぶ	講義	教科書第 2 章の復習（30 分）。第 3 章を予習（15 分）。
4	記憶:記憶のメカニズムと種類、忘却について学ぶ（Quiz２）	Quiz2 講義	教科書第 3 章とクイズ 2 の復習(30 分)。第 4 章を予習(15 分)。
5	知能:知能とは何かと知能検査について学ぶ	講義	教科書第 4 章の復習（30 分）。第 5 章の予習（15 分）。
6	学習：条件付けと社会的学習について学ぶ（Quiz３）	Quiz3 講義	教科書第 5 章と Quiz3 の復習(30 分)。第 6 章の予習(15 分)。
7	感情：感情の諸相とメカニズムを学ぶ	講義	教科書第 6 章の復習（30 分）。第 7 章の予習（15 分）。
8	性格：性格の理論と性格検査について学ぶ（Quiz４）	Quiz4 講義	教科書第 7 章と Quiz4 の復習(30 分)。第 8 章の予習(15 分)。
9	集団：集団と集団心理の特徴について学ぶ	講義	教科書第 8 章の復習（30 分）。第 9 章の予習（15 分）。
10	発達：発達と発達段階について学ぶ（Quiz５）	Quiz5 講義	教科書第 9 章と Quiz5 の復習(30 分)。第 10 章の予習(15 分)。
11	適応：適応と自我防衛機制について学ぶ	講義	教科書第 10 章の復習（30 分）。
12	カウンセリング：さまざまなカウンセリング理論を学ぶ（Quiz６）	Quiz6 講義	教科書第 10 章 Quiz6 との復習(30 分)。第 11 章の予習(15 分)。
13	医療･看護と心理学：患者の心理と看護職の心理的問題について学ぶ	講義	教科書第 11 章の復習（30 分）。
14	人間関係:人間関係に関する心理的知見について学ぶ	講義	講義内容の復習（30 分）。
15	災害とトラウマ：災害時のトラウマと心理社会的支援について学ぶ	講義	講義内容の復習（30 分）。

到達目標	1. 心理学の歴史の概略と心理学の研究対象を簡潔に説明できる。 2. 人間の知覚、記憶、知能、学習、感情、性格、集団心理、発達、適応について簡潔に説明できる。 3. 心理学的研究法の観察法、実験法、面接法、質問紙法、検査法、事例研究法について簡潔に説明できる。 4. カウンセリングとは何かについて簡潔に説明できる。 5. 死の５段階説、悲嘆のプロセス、バーンアウトについて簡潔に説明できる。 6. トラウマについて簡潔に説明できる。
DP 要素	DP1 ／ DP2 ○ ／ DP3 ○ ／ DP4 ／ DP5 ○
評価方法･基準	筆記試験 90%、6 回の Quiz の平均点 10%（Quiz を欠席すると平均点が下がるので要注意）で評価します。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 Quiz は採点後返却し講義時間に正答を伝えます。試験も採点後返却します。
履修条件	特になし
学習相談･助言体制	質問は、講義時間内で口頭、質問用紙、オフィスアワーを使用しての面接、メールで受け付けます。 回答は、講義時間内や質問時に行います。
その他注意等	講義で使用したプレゼンテーション資料は講義の後にメールで配布します。

テキスト	「系統別看護学講座　心理学　第６版」山村豊、髙橋一公　編（医学書院）
参考文献	・「ベーシック心理学」二宮克美　他（医師役出版株式会社） ・その他については適宜講義時間内に紹介します。

教育課程：基盤教育科目
資格対応：教職課程（養教Ⅰ）

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	2(30)	選択

教育心理学

担当教員（担当形態）　：　武田篤（非常勤講師　秋田大学教育文化学部）
渡部論（非常勤講師　秋田県立大学総合科学教育研究センター）
中野良樹（非常勤講師　秋田大学教育文化学部）　（複数・オムニバス）

授業の目的	教育心理学とは何かを理解し、教育に必要な心理学的知識を身につける。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	教育心理学とはどのような心理学かについて学ぶ（中野）	講義	都度指示する
2	記憶のメカニズムと忘却（中野）	講義	都度指示する
3	体験的記憶の発達と障害（中野）	講義	都度指示する
4	知能の発達と知能検査について学ぶ／条件付けと学習のメカニズムについて学ぶ（渡部）	講義	都度指示する
5	外発的動機づけと内発的動機づけ、学習性無力感について学ぶ（渡部）	講義	都度指示する
6	生涯発達理論・発達の要因・発達段階と発達課題（新生児期・乳児期・幼児期）について学ぶ（武田）	講義	課題のまとめ（事後 30 分）
7	発達段階と発達課題（児童期・青年期・成人期・老年期）について学ぶ（渡部）	講義	都度指示する
8	学習指導の理論、共同学習、学習の個性化について学ぶ（渡部）	講義	都度指示する
9	体験学習の実際と意義（中野）	講義	都度指示する
10	教育評価を学び指導に生かす方法について学ぶ（渡部）	講義	都度指示する
11	向社会的行動と道徳性の発達（中野）	講義	都度指示する
12	学習集団と協働的問題解決（中野）	講義	都度指示する
13	障害がある幼児、児童（低学年）の心身の発達及び学習の過程について学ぶ（武田）	講義	課題のまとめ（事後 30 分）
14	障害がある児童（中・高学年）、生徒の心身の発達及び学習の過程について学ぶ（武田）	講義	
15	インクルーシブ教育と校舎の構造について考える（武田）	講義	

到達目標	1　教育心理学とは何かについて簡潔に説明できる。 2　記憶、思考・言語・知能、学習、動機づけ、発達、社会性、教師と児童・生徒および児童・生徒同士の人間関係について心理学的に説明できる。 3　プログラム学習、発見学習、有意味受容学習、バズ学習、ジグソー学習について簡潔に説明できる。 4　教育評価について簡潔に説明できる。 5　障害児の心理と特別支援について簡潔に説明できる。								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5
評価方法･基準	別途提示する								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	講義終了時又は講師不在時には学務課教務係にて質問を受け付け、次回講義又はメールなどにより回答します。								
その他注意等	なし								

テキスト	なし
参考文献	適宜講義時間内に紹介します。

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位時間数	必修／選択
1	1（15）	必修

哲学

担当教員（担当形態） ：田子多津子（非常勤講師）（単独）

授業の目的	人間への理解を深めるために、＜わたし＞と他者とのかかわりについて、哲学者たちの見解を手がかりとして様々な観点から考察する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	「聴く」ことと哲学とのつながりについて考える	講義	事前に第 1 章を読んでおく(90 分)
2	「哲学の場所」について考える	講義	第 2 章を読んでおく(90 分)
3	「遇う」ことの意味について考える	講義	第 3 章を読んでおく(90 分)
4	「だれ」としての他者とのかかわりについて考える	講義	第 4 章を読んでおく(90 分)
5	「傷つきやすさ」について考える	講義	第 5 章を読んでおく(90 分)
6	「ふれる」と「さわる」について考える	講義	第 6 章を読んでおく(90 分)
7	「ケア」について考える（1）「享ける」こと、「いる」ことの意味	講義	第 7 章を読んでおく(90 分)
8	「ケア」について考える（2）「ホスピタリティ」の本質	講義	第 8 章を読んでおく(90 分)

到達目標	・自己と他者に関して、テキストにおいて提示されている概念を説明できる。 ・＜わたし＞の成立における他者の意味を述べることができる。 ・テキストに言及されている自己と他者との関係について自分の解釈を述べることができる。								
DP 要素	DP1	○	DP2	○	DP3		DP4		DP5
評価方法･基準	試験 70%，小レポート 20%，振り返りカード 10% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 提出されたレポートはコメントを付して返却します。 試験は、記述式設問については簡潔なコメントを付して返却します。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	振り返りカードの質問欄及びメールで受け付け、回答する。								
その他注意等	各回とも、全員がテキストの指定箇所を読んでいることを前提に講義を進める。								

テキスト	鷲田清一『「聴く」ことの力―臨床哲学試論』ちくま学芸文庫、2015
参考文献	授業の中で適宜紹介する。

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	1（15）	選択

法学

担当教員（担当形態） ：瀬田川昌裕（非常勤講師）（単独）

授業の目的	医療現場で発生する法的諸問題をとりあげ、看護師に役立つ法的知識を身につける。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	看護と法	講義	社会規範と法(30 分)
2	犯罪と刑事手続き	講義	刑事手続きと人権(30 分)
3	看護師の刑事責任	講義	終末期医療(30 分)
4	民事責任と医療事故	講義	医事紛争の処理(30 分)
5	看護師の過失	講義	注意義務･不法行為(30 分)
6	看護と個人情報	講義	インフォームド･コンセント(30 分)
7	看護師と労働法	講義	労働契約･労働災害(30 分)
8	看護師の法的位置づけ	講義	看護師の資格と業務(30 分)

到達目標	医療現場で発生しやすい法的諸問題に対して、適切な対応を自ら考えることができる。								
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3		DP4	○	DP5
評価方法･基準	試験 90%、授業態度 10%で、総合的に評価する。 随時課題を与え、授業の中で発表してもらいコメントする。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	出席カードに質問・意見・要望を描くこと。次回にコメントする。								
その他注意等	新聞を毎日読むこと。								

テキスト	毎回プリントを配布する。
参考文献	長尾龍一『法学ことはじめ』信山社　1998

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	1（15）	選択

音楽論

担当教員（担当形態） ：石原慎司（非常勤講師　秋田大学　教育文化学部）（単独）

授業の目的	音楽という事象を個人の好みを超えて客観的に把握、評価することができ、現代社会の人々が有する諸問題を個々が考察していくための基礎的思考基盤を培う。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	音楽に力はあるか～最近のいくつかの演奏を鑑賞したうえで、グループで検討した内容を発表し、普遍性、共通性を見出す。	講義 ＊必要に応じて演習形式（協議等）を取り入れながら課題作成を指示することがある。	授業中に紹介されたネット動画等を自宅等でも鑑賞し、考察を深めることが望ましい。（各回事前事後 60 分程度）
2	18 世紀の音楽・文化・思想について①		
3	18 世紀の音楽・文化・思想について②		
4	18 世紀のまとめ～中世から近代への転換点を中心に～		
5	19 世紀の音楽、文化、思想について①		
6	19 世紀の音楽、文化、思想について②		
7	「芸術」とは何か～音楽その他の分野の作品を鑑賞を通して、この言葉の意味を検討する。		これまでの学習内容の整理（60 分）
8	まとめ～これまでの振り返りと小テスト　＊欠席のないように		同上

到達目標	音楽と他の諸要素との関わりを論理的に整理、理解することができる。								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4	○	DP5
評価方法･基準	課題の提出物（100%） 第 1 回から第 7 回までの授業中課題（特に記入を指示した事項のノート）は最終回に確認し、その場で評価する（A○40,　A30, B○20, B10, C5, D0 ）。 最終回の授業中課題（小テスト 60 点満点）については返却できないので解答例を配布する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	授業終了直後、または、メールで受け付け、回答する。								
その他注意等	積み上げ型の論理展開となる授業ですので、欠席すると授業への理解に支障が出る可能性があります。								

テキスト	なし
参考文献	上尾信也『音楽のヨーロッパ史』東京：講談社（2000）

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1（15）	選択

郷土文学

担当教員（担当形態） ：山﨑　義光（単独）

授業の目的	「郷土」あるいは類語である「故郷（ふるさと）」とは何か、いくつかの文学作品（広い意味で理解）を読んで理解する。加えて、自らの考えを表現することを通して考える。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	概説、「郷土」とはなんだろうか	講義・表現	小論文準備・180 分
2	日本の近代化と「故郷」意識	講義・小テスト	配付資料を読む・180 分
3	「ふるさと」を表現した文学	講義・小テスト	配付資料を読む・180 分
4	国木田独歩「帰去来」	講義・小テスト	配付資料を読む・180 分
5	私の「故郷」	講義・表現	小論文準備・180 分
6	郷土の本の紹介（発表１）	発表・講義	発表準備・180 分
7	郷土の本の紹介（発表２）	発表・講義	発表準備・180 分
8	郷土の本の紹介（発表３） まとめ	発表・講義	発表準備・180 分

到達目標	1.「郷土」「故郷」について説明できる。 2.日本の近代化と「故郷」の関係について説明できる。 3. 郷土・故郷・郷愁をテーマとする本を読んでよく理解し、読みどころを紹介できる。 4.自らの考えを記述・口頭で表現できる。
DP要素	DP1 ○　DP2 ○　DP3　DP4　DP5
評価方法･基準	授業の内容や発問に対する回答を記す課題・小論文を提出（50%）。発表の実施（40%）。発表への質疑等、授業への積極的参加（10%）。それらを総合して評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 提出された課題の内容を授業で紹介し、コメントをする。また、発表に対するコメントをする。
履修条件	なし
学習相談･助言体制	授業、課題・小論文の提出用紙およびメールで受け付け、授業やメールで回答する。
その他注意等	授業で用いる資料をあらかじめ配布し小テストを行います。また、自分の考えを表現する課題、質問や意見を述べ合う機会をつくります。積極的に参加してください。

テキスト	必要に応じて使用するプリントを配布する。事前に配布された資料は必ず読んでおく。
参考文献	授業のなかで指示する。

教育課程： 基盤教育科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	2（30）	選択

教職入門

担当教員（担当形態） ： 手塚裕・小笹典子（複数）

授業の目的	教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めさせるとともに、教職への意欲を高め、教育者としての使命感や教職に求められる熱意あふれる教員になるための資質、能力を身につけることを主な目的とする。また、自らの進路として教職を選択することについての適切な判断に必要な各種の情報や機会を提供し、教職と自らの適性との関連について深く考察する契機とする。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	オリエンテーション（教師とはどのような職業か、学校現場実体験に向けての計画づくり）	講義：シラバス、配付資料を解説する。	事前：教職への思いについてまとめておく。(30 分)
2	教職の意義と魅力（なぜ教師を目指すのか、使命感と情熱、教員のライフサイクル）	講義：配付資料を解説する。	事前：教師としての使命感をまとめておく。(30 分)
3	教員の仕事と役割（教師と他の職業との比較、職務内容と勤務実態）	講義：配付資料を解説する。	事前：教師の資質・能力について調べておく。(30 分)
4	教員免許法と教員採用試験	講義：配付資料を解説する。	事前：教員採用試験の現況について調べておく。(30 分)
5	公教育の原則と教員養成	講義：配付資料を解説する。	事前：憲法・教育基本法について調べておく。(30 分)
6	学校教育制度と教員	講義：配付資料を解説する。	事前：学校教育法、学校教育法施行規則等について調べておく。(30 分)
7	学校教育の目的と目標（学力観、学習指導要領）	講義：学習指導要領及び総則編、配付資料を解説する。	事前：学習指導要領及び総則編の該当部分を読んでおく。(30 分)
8	教員の勤務と服務（身分保障と懲戒及び分限、勤務条件）	講義：配付資料を解説する。	事前：教師の服務規程について調べておく。(30 分)
9	自ら学び続ける教師（研修、現在の教員に求められている資質能力）	講義：配付資料を解説する。	事前：研修制度について調べておく。(30 分)
10	子どもの人権を大切にする教師（生徒指導、学級経営）	講義：配付資料を解説する。	事前：懲戒の範囲、体罰の事例について調べておく。(30 分)
11	学校組織の一員としての教師（学校運営、同僚性、チーム学校）	講義：配付資料を解説する。	事前：校務分掌組織について調べておく。(30 分)
12	家庭、保護者との対応と連携	講義：配付資料を解説する。	事前：家庭訪問、保護者会について調べておく。(30 分)
13	地域や外部人材との連携	講義：配付資料を解説する。	事前：学校支援地域本部について調べておく。(30 分)
14	教師の職場環境と危機管理	講義：配付資料を解説する。	事前：教師のメンタルヘルスについて調べておく。(30 分)
15	あるべき教師像を求めて（資質向上及び適格性獲得に向けた自己の課題と目標の明確化）	講義：配付資料を解説する。	事後：今後の学習計画を作成する。(30 分)

到達目標	1.教職の現状と課題を理解し説明できる。 2.教員の職務内容、使命を理解し、専門的な力量、教員としての適格性を高めようと取り組むことができる。 3.理想の教師を目指すため、大学で学ぶべき内容、自分の課題・目標を明確にして、具体的な学習計画を立てることができる。								
ＤＰ要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	受講状況（講義内での傾聴意欲、参加態度）（20%）および定期試験（80%）を総合的に評価する。 定期試験については、採点後返却する。								
履修条件	教職科目の履修条件に準ずる。								
学習相談･助言体制	授業の前後およびオフィスアワーを利用。メールでの相談は随時。								
その他注意等	教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求める。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における教育に関する様々な情報収集に努めていく。								

テキスト	随時プリントを配付する。 平成 29 年 3 月公示された新学習指導要領が発刊されるまでは文科省 HP より必要部分をダウンロードして利用する。 ・「小学校学習指導要領」・「小学校学習指導要領解説　総則編」 ・「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説　総則編」
参考文献	「解説「教育六法」2017 年版」（三省堂）などの小六法　卒業時まで教職科目で利用

教育課程： 基盤教育科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（15）	選択

教育原論

担当教員（担当形態） ：手塚裕・小林建一(非常勤講師)・鈴木翔(非常勤講師　秋田大学)（オムニバス）

授業の目的	今日の学校における「荒れ」といった課題とも関連させ、教育の目標・内容や方法の在り方を中心に追及していく。教育の目標・内容及び方法は、相互に密接な関連をもちながら、それぞれの在り方が検討されなければならない。それぞれの意義と役割について、理論的且つ実践的に追及していく。授業では、これから教育の仕事に就こうとする人が考え続けなければならない問題のいくつかを具体的に取り上げ、それを多方面から検討して、教育へのまなざしと思いを深化させることを課題とする。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	オリエンテーション（教育とは何か、教育とはいかにあるべきか）（小林）	講義：シラバス、配付資料を解説する。	事前:学級崩壊、不登校等教育問題について調べ、整理しておく。(90 分)
2	学校をめぐる問題状況と「子どもの権利条約」の意義（小林）	講義:配付資料を解説する。	事前:「子どもの権利条約」について調べておく。(90 分)
3	教育思想（ルソー、ペスタロッチ等）（小林）	講義:配付資料を解説する。	事前：代表的な教育思想について調べておく。(90 分)
4	日本の教育とその歩み（小林）	講義:配付資料を解説する。	事前：日本の近代化と教育との関係について調べておく。(90 分)
5	教育課程の変遷（手塚）	講義:配付資料を解説する。	事前：学習指導要領の変遷について調べておく。(90 分)
6	学校制度の形成（小林）	講義:配付資料を解説する。	事前：学校制度の概要について調べておく。(90 分)
7	教育理念と教師像（鈴木）	講義:配付資料を解説する。	事前：戦前と戦後の教育を比較し、まとめておく。(90 分)
8	教えと学びをめぐって(これからの教育)(小林)	講義:配付資料を解説する。	事前:「生きる力」の育成について調べておく。(90 分)

到達目標	1　教育思想の発展の歩みは、教育法や教育制度にどのような影響を与えたかを考察し、教育の目的及び理念、教育の実施に関する基礎的な事項や概念を説明できる。 2　近代化と日本の教育の役割について学校教育制度や教育課程の変遷から考察し、日本の公教育を地域や家庭と関連づけて考え、まとめることができる。 3　現代社会における教育課題について考察し、今後の教育実践と教師の資質について自らの考えを述べることができる。								
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	受講状況（講義内での傾聴意欲、参加態度）(10%)、授業内で提出する振り返りカード等の提出物（40%）、レポート課題（50%）を総合的に評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 提出物については翌週に、またレポート課題については最終回に、問題点や改善点等について説明する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	授業の前後およびオフィースアワーを利用。メールでの相談は随時。								
その他注意等	講義が中心の授業であるが、ディスカッションや発言の機会を積極的に設けていく。今後教育する立場に立つことを常に意識し、能動的に考え、語る態度で授業に臨むように心がけていく。								

テキスト	随時プリントを配付する。
参考文献	・汐見稔幸ほか編著「よくわかる教育原理」ミネルヴァ書房 2011 ・田中耕治ほか著「新しい時代の教育課程　第 3 版」有斐閣 2011 ・参考書等は講義の中で必要に応じて紹介する。

教育課程： 基盤教育科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	2（30）	選択

教育社会学

担当教員（担当形態） ：小林建一(非常勤講師)・鈴木翔(非常勤講師　秋田大学)（複数）

授業の目的	人間の教育は、社会や制度と密接に関連していることを学んでいく。特に、現代日本社会で関心を集める教育課題（いじめ、不登校、体罰等）の特徴やその原因について、それを取り巻く社会状況等と関連させながら考察していく。また、学校と社会や制度との関係性について理解を深めていくことで、これまで自明と見なしてきた学校像を反省的に捉え直すと同時に、あらたな教育制度の可能性を検討していくための基礎的な視点を獲得していく。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 (学習課題・取組時間)
1	オリエンテーション　（小林） 社会変動の中の教育	講義：シラバス、配付資料を解説	事前：わが国の教育改革の中から１つを調べておく（90 分）
2	教育の諸制度（１）　（小林） 日本国憲法と教育基本法	講義：配付資料を解説	事前：憲法の教育に関する条文と教育基本法の全条文を調べておく（90 分）
3	教育の諸制度（２）　（小林） 学校体系と教育内容、学習指導要領の法的拘束力	講義：配付資料を解説	事前：学習指導要領と教科書検定の関係について調べておく(90 分)
4	学校と保護者・地域社会の連携　（小林） ―合議制学校経営と地域運営学校	講義：配付資料を解説	事前：「地域に開かれた学校づくり」について調べておく。(90 分)
5	学校教育における諸問題（１）　（小林） ―懲戒・体罰と法	講義：配付資料を解説する。	事前：体罰が禁止されている理由について調べておく（90 分）
6	多文化教育と学校教育　（小林）	講義：配付資料を解説	事前：多文化共生社会について調べておく（90 分）
7	家庭における親子の人間関係と教育（１）　（小林） 児童虐待	講義：配付資料を解説	事前：児童虐待防止法について調べておく（90 分）
8	現代社会における教育改革の方向性　（小林） 教師の教育観と「教室という社会」の構造	講義：配付資料を解説	事前：学級集団づくりについて調べておく（90 分）
9	教育と格差拡大、就学支援制度　（鈴木）	講義：配付資料を解説	事前：日本の教育格差について調べておく。(90 分)
10	学校教育における諸問題（２）　（鈴木） ―「いじめ問題」と法	講義：配付資料を解説	事前：いじめの原因といじめ防止のための法律を調べておく(90 分)
11	「学力幻想」と学力問題の政治化　（鈴木）	講義：配付資料を解説	事前：全国学力テストについて調べておく（90 分）
12	学校教育における諸問題（３）　（鈴木） ―不登校と法的しくみ	講義：配付資料を解説	事前：不登校の原因と不登校に関する法律を調べておく（90 分）
13	特別支援教育制度の現状と課題　（鈴木）	講義：配付資料を解説	事前：特別支援教育の歴史と理念を調べておく。(90 分)
14	学校教育における危機管理と安全教育　（鈴木）	講義：配付資料を解説	事前：防犯教育と防災教育について調べておく。(90 分)
15	家庭における親子の人間関係と教育（２）　（鈴木） 核家族化と少子化	講義：配付資料を解説	事前：家庭教育について調べておく（90 分）

到達目標	１　教育に関する制度や理論の基礎的知識について説明することができる。 ２　教育に関する諸問題と社会や制度との関係を関連づけて説明することができる。 ３　習得した知識を基に、昨今の教育問題に関し多角的に捉え直し、自分の考えを持つことができる。
DP要素	DP1 ｜ DP2 ○ ｜ DP3 ○ ｜ DP4 ○ ｜ DP5
評価方法･基準	受講状況（講義内での傾聴意欲、参加態度）(20%)、授業内で提出する振り返りカード等の提出物（20%)、中間レポート（30%)、最終レポート（30%）を総合的に評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 提出物については翌週に、中間レポートについては第８回目に、問題点や改善点等について説明し、最終レポートについては総評を行う。
履修条件	なし
学習相談･助言体制	授業の前後およびオフィースアワーを利用。メールでの相談は随時。
その他注意等	毎回の授業後に提出する振り返りシートには、授業に関する疑問点や意見を記入する。ニュース等で報道される教育問題に関心を持ち、事前事後学習に生かしていく。明確な問題意識を持っているか否かで、授業から得られるものは違う。教育法規や難解語句は教育小六法や教育用語辞典で確認すること。

テキスト	随時プリントを配付する。
参考文献	・「小学校学習指導要領」（東京書籍） ・「中学校学習指導要領」（東山書房） ・「高等学校学習指導要領」（三省堂） ・「解説「教育六法」2016 年版」（三省堂）などの小六法 ・その他必要に応じ講義の中で紹介する。

教育課程：基盤教育科目
資格対応：教職課程（養教Ⅰ）

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	1(15)	必修

情報リテラシー

担当教員（担当形態） ： 佐藤考司（単独）

授業の目的	情報機器を大学生活での学習の道具または看護業務の道具として利用するために、 ・コンピュータの使用に関する基礎的な知識、技能について学ぶ。 ・インターネット上からの情報の取得、インターネット上への情報発信について学ぶ。 ・他者と円滑にコミュニケーションするためにプレゼンテーションソフトの使用方法を学ぶ。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	ガイダンス、コンピュータルーム、学生用メールの利用方法について	講義 演習	事後課題：学習内容の復習(90 分)
2	情報倫理(IT マナーについて)	講義	事後課題：自身の IT マナーについて報告(90 分)
3	情報倫理(インターネット上での誹謗中傷)	講義	事後課題：学びについてまとめる(90 分)
4	情報倫理(インターネット上への情報発信)	演習	事前課題：該当部分について教科書上の演習問題を解く(90 分)
5	表計算ソフト：基本操作の確認(表、グラフ作成)	演習	事前課題：該当部分について教科書上の演習問題を解く(90 分)
6	プレゼンテーション　アウトラインの作成	演習	事前課題：プレゼンテーションに使用するデータを収集(90 分)
7	プレゼンテーション　発表原稿作成	演習	事後課題：次回のプレゼンテーションの練習を行う。(90 分)
8	プレゼンテーション　発表、相互評価	演習	相互評価にて、良い部分をレポートする。(90 分)

到達目標	・オフィス系ソフトを適切に利用できる。 ・インターネット上の情報の真偽について理解し、信頼のおけるサイトから情報を取得できる。 ・インターネットへの個人情報の掲載についてその危険性並びに安全な情報掲載について理解する。 ・表計算ソフトを用いて、票・グラフを作成できる ・プレゼンテーションソフトを用いて自身の考えをわかりやすく表現できる。								
DP 要素	DP1		DP2		DP3	○	DP4	○	DP5
評価方法･基準	課題レポート 70%　実技演習 30% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 合否発表に併せ、科目全体としての到達状況の評価や平均点等について周知します。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	メールで受け付け、回答する。								
その他注意等	なし								

テキスト	「イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル Office2016 対応【NESS 付】」（noa 出版）
参考文献	なし

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	1(15)	必修

基礎統計学

担当教員（担当形態） ：佐藤考司（単独）

授業の目的	研究又は臨床の場において統計処理を行い、他者の作成した統計データを理解するために ・データの収集、集計について学ぶ ・与えられたデータをもとに統計的推定を行い、結果について理解する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	ガイダンス、標本抽出、尺度、代表値	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
2	散布度、標準偏差、変動係数、偏差値	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
3	標準偏差、分散、範囲、四分位範囲、標準正規分布	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
4	データの標準化	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
5	相関係数、統計的推測	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
6	信頼区間の推定	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
7	仮説検定	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)
8	国家試験過去問含む総合問題　演習	講義 演習	事後課題：講義内提示練習問題(90 分)

到達目標	1　統計学的データの種類について理解し、説明できる。 2　様々な代表値について理解し計算できる。 3　標準正規分布について理解し、データを標準化することで与えられた範囲に含まれる確率を計算できる。 4　相関係数について理解し、説明できる。 5　統計的推測について理解し説明、計算できる。									
DP要素	DP1		DP2		DP3	○	DP4	○	DP5	
評価方法･基準	筆記試験 100% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 試験後、回答用紙返却時に個別にコメント対応します。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	メールで受け付け回答する。									
その他注意等	なし									

テキスト	石井秀宗「人間科学のための統計分析」医歯薬出版株式会社
参考文献	なし

教育課程： 基盤教育科目
資格対応： 教職課程（養教Ⅰ）

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1(30)	必修

基礎統計学演習

担当教員（担当形態） ：佐藤考司（単独）

授業の目的	研究又は臨床の場において統計処理を行い、他者の作成した統計データを理解するために、適切な統計処理の選択方法、統計処理ソフトの使い方、統計処理によって出力された結果の理解について学ぶ。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	ガイダンス、表計算：データ入力、基礎的な統計処理(データ入力)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
2	基礎的な統計処理(フィルタリング、クロス集計)	演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
3	表計算ソフト　基礎統計量	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
4	表計算ソフト　信頼区間の推定	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
5	表計算ソフト　相関係数	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
6	表計算ソフト　t- 検定	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
7	表計算ソフト　χ二乗検定	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
8	統計処理ソフト SPSS　ガイダンス	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
9	統計処理ソフト SPSS　パラメトリック、ノンパラメトリック検定	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
10	統計処理ソフト SPSS　演習(分散分析)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
11	統計処理ソフト SPSS　演習(回帰分析)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
12	統計処理ソフトSPSS　演習(判別分析、独立性の検定)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
13	統計処理ソフトEZR ガイダンス	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
14	統計処理ソフト EZR 演習(パラメトリック、ノンパラメトリック検定)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)
15	統計処理ソフト EZR 演習(分散分析、独立性の検定　等)	講義 演習	事後課題:関連する練習問題(30 分)

到達目標	1　表計算ソフト、統計処理ソフトに適切にデータを入力できる。 2　表計算ソフトを用いて、代表値の算出、集計ができる 3　データの型から適切な統計処理方法を選択できる。 4　統計処理ソフトを適切に使用し、統計処理できる 5　統計処理によって得られた出力結果を正しく理解、解釈できる。									
DP 要素	DP1		DP2		DP3	○	DP4	○	DP5	
評価方法･基準	課題レポート 50%　筆記試験　50% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 試験後、回答用紙返却時に個別にコメント対応します。 課題レポートについては、採点後に全体としての到達状況の評価をします。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	メールで受け付け、回答する。									
その他注意等	なし									

テキスト	・「SPSS による統計処理の手順」石村貞夫（東京図書）
参考文献	なし

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	1（15）	選択

生物学

担当教員（担当形態） ：尾高　雅文（非常勤講師　秋田大学大学院理工学研究科）（単独）

授業の目的	生物学は自然界や生命現象を学ぶための基礎となる学問です。この授業では、これから大学で生命現象を学んでいくために必要な基礎知識を修得し、生命現象を司る“原理”を分子レベルで理解することを目的とします。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	細胞の構造と細胞を構成する成分	講義	事前:前回の講義資料を読んで復習をしておく(20 分) 事後:授業でわからなかった用語や内容を教科書や Web 検索などで調べて、理解する(60 分)
2	タンパク質の基本構造		
3	代謝入門 ～生命はどのように生体内の反応を進めるのか？～		
4	細胞輸送～細胞内でモノを運ぶしくみ～		
5	細胞骨格～細胞をかたちづくるタンパク質たち～		
6	DNA の構造と複製		
7	遺伝子発現のしくみ		
8	遺伝子発現の調節		

到達目標	1. 細胞の構造と主要な生体高分子の機能を説明できる 2. タンパク質の基本構造と立体構造形成のしくみを説明できる 3. 代謝の基本概念を説明できる 4. 細胞内の物質輸送のしくみを説明できる 5. 細胞内の骨格となるタンパク質の種類と役割を説明できる 6. DNA の構造と複製のしくみを説明できる 7. 遺伝子発現とその調節機構を説明できる									
DP 要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4	○	DP5	
評価方法･基準	期末試験(80 点満点)、講義への参加度(学習態度、質問への解答など、20 点満点)を総合して評価する。									
履修条件	特に有りません									
学習相談･助言体制	講義終了後の時間、またはメールにて随時受け付ける									
その他注意等	高校で生物を学んでいない学生には、耳慣れない専門用語が多数出てきます。毎回の授業終了後に、わからなかった単語をよく調べて理解するように心がけてください。単語の意味さえ理解できれば、生物学の学習は物理学・化学に比べて取り組みやすいと思います。									

テキスト	授業で使用する資料は教員が用意し、毎回の授業で配布する。
参考文献	・エッセンシャル細胞生物学　原書第 4 版　原著 Alberts, B. *et al.* 監訳 中村桂子 / 松原謙一 南江堂(2016 年) ・ストライヤー生化学(第 7 版) J. M. Berg, J. L. Tymoczko, L. Stryer 著; 入村達郎、岡山博人、清水孝雄 監訳　東京化学同人(2013 年)

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	2（30）	必修

赤十字原論

担当教員（担当形態） ：新沼剛・井上忠男（オムニバス）

授業の目的	人道を実践する看護師として必要な資質を養うために、赤十字の看護大学生として修得すべき赤十字の使命、歴史、基本原則、活動、組織等について理解する

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	赤十字の起源とアンリ・デュナンの功績（新沼）	講義	赤十字関連の文献の購読、日本赤十字社 HP や赤十字関連機関の HP の閲覧（事前 60 分）
2	国際赤十字赤新月運動のしくみと活動（1）　赤十字国際委員会（新沼）		
3	災害時における社会福祉施設の役割、福祉避難所の役割（新沼）（赤十字・国際人道法教育フォーラム）	講義	2017 年秋田県豪雨災害について調べる(60 分)
4	国際赤十字赤新月運動のしくみと活動（2）（新沼）国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字・赤新月社	講義	赤十字関連の文献の購読、日本赤十字社 HP や赤十字関連機関の HP の閲覧（事前 60 分）
5	日本赤十字社の誕生（新沼）	講義	赤十字関連の文献の購読、日本赤十字社、日本赤十字社熊本県支部 HP の閲覧（事前 60 分）
6	国際人道法の基礎知識（新沼）	講義演習	テキスト①の購読（事前 60 分）
7	赤十字標章の適正使用について（新沼）		
8	赤十字の基本原則（1）　人道・公平・中立・独立（新沼）	講義演習	テキスト②の購読（事前 60 分）
9	赤十字の基本原則（2）　奉仕・単一・世界性（新沼）		
10	日本赤十字社のしくみと活動（1）　日本赤十字社の組織概要（新沼）	講義	赤十字関連の文献の購読、日本赤十字社 HP や赤十字関連機関の HP の閲覧（事前 60 分）
11	日本赤十字社のしくみと活動（2）　日本赤十字社の活動（新沼）		
12	災害救護訓練　オリエンテーション（新沼・井上）	演習(実技)	搬送・応急処置の練習（事前・事後 60 分）
13	災害救護訓練　搬送・応急処置の練習（新沼・井上）		
14	災害救護訓練　実動訓練に向けた準備（新沼・井上）	演習(訓練)	
15	災害救護訓練　実動訓練（新沼・井上）		搬送・応急処置の練習、リフレクション（事前・事後 60 分）

到達目標	1. 赤十字誕生の歴史を説明できる 2. 国際赤十字赤新月運動の構成体をすべて列挙し、その活動を説明できる 3. 日本赤十字社誕生の歴史を説明できる 4. ジュネーブ諸条約を構成する条約を全て列挙し、各条約の概要を説明できる 5. 赤十字標章の適正使用と濫用を類別できる 6. 赤十字の基本原則の視点から国内外で実施されている人道支援活動を評価できる 7. 日本赤十字社の事業活動をすべて説明できる 8. 赤十字の基本原則に基づき、災害救護訓練で搬送・応急処置を実施できる									
DP 要素	DP1	○	DP2	○	DP3		DP4	○	DP5	
評価方法･基準	試験（80%）、災害救護訓練のレポート（A: 20 点、B:15 点、C:10 点） 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 試験については答案を返却する。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	レスポンスカードで受け付け、翌週の授業で回答									
その他注意等	日頃から、新聞やインターネット等で人道問題に関する記事を閲覧すること									

テキスト	①日本赤十字社『赤十字と国際人道法』日赤サービス、2016 ②ジャン・ピクテ著／井上忠男訳『解説　赤十字の基本原則』東信堂、2007
参考文献	桝居孝、森正尚『世界と日本の赤十字　世界最大の人道支援機関の活動』東信堂、2014 赤十字看護研究会『新人看護師　若葉と読む　赤十字の基本原則』赤十字看護研究会、2012 石巻赤十字病院、由井りょう子『石巻赤十字病院の 100 年間』小学館、2011

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	1（15）	選択

異文化論

担当教員（担当形態） ：田所聖志（非常勤講師　秋田大学　教育文化学部）（単独）

授業の目的	この講義では医療人類学の概説が行われる。現代医学によって診断される「病気」は、全ての人類社会で「病気」とみなされるわけではない。逆に、現代医学で「健康」だと診断される人が、文化の異なる社会では「病気」だと考えられていることもある。医療人類学は、このような現象を理解するための学問体系である。本講義の履修学生は、医療人類学の論文・単行本を教材として教員とディスカッションを行い、看護学・医学における医療人類学の意義の理解に努めることになる。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	ガイダンス・医療人類学とは何か	講義・演習	（事後）コメントシートの提出。(15分)
2	文化による「病い」の捉え方	講義・演習	（事前）テキスト序章を読み、感想を書く。(60分)
3	プラセボ効果・病いは気から？	講義・演習	（事前）テキスト第1章を読み、感想を書く。(60分)
4	狂気は異常か	講義・演習	（事前）テキスト第3章（前半）を読み、感想を書く。(60分)
5	非西洋社会の身体観と健康観	講義・演習	（事前）テキスト第2章を読み、感想を書く。(60分)
6	呪術・民間療法	講義・演習	（事前）テキスト第4章を読み、感想を書く。(60分)
7	人喰い（カニバリズム）	講義・演習	（事前）テキスト第3章（後半）を読み、感想を書く。(60分)
8	国際保健と医療人類学	講義・演習	（事前）テキスト第5章を読み、感想を書く。(60分)

到達目標	・医療人類学のキー概念を説明することができる。 ・看護学・医学における医療人類学の意義を説明することができる。 ・特に地域看護の場面で要する、出身地や年齢の違いから生じる異なる価値観をもつ人々の理解に必要なことを知る。									
DP要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	
評価方法･基準	毎回の講義の予習レポート（20%）、教材の精読（20%）、授業での発言（20%）、授業内でのプレゼンテーション（20%）、最終試験（20%）から総合的に判断します。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 毎回の課題であるテキストの感想に対するコメントを授業内に行います。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	授業の前後に教室で相談に応じます。電子メールでの問い合わせにも応じます。連絡先は授業でお知らせします。また、適宜、希望者向けの課外学習のお知らせをします。									
その他注意等	遅刻･無断欠席をしないこと。テキストの感想をA4用紙1枚にまとめることが毎回の課題です。									

テキスト	波平恵美子 1994 『医療人類学入門』（朝日新聞社）。 （※初回時には持参する必要はありません）。
参考文献	授業中に紹介します。

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位時間数	必修／選択
1	1（30）	必修

英語Ｌ・Ｓ（Basic English for Communication）

担当教員（担当形態）　：廣渡太郎（単独）

授業の目的	This course is designed to develop the basic communication skills of English with an emphasis on listening and speaking. Language study will be supplemented with traveling abroad information that will provide a cultural lens into the English-speaking world. The course also orients students to the new culture while acquiring the basic mechanical skills of the English language.

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	Class Guidance, Introducing your classmate (1)	Lecture, Group work	Task 1 (90 mins), Self-study at CALL (90 mins)
2	Introducing your classmate (2), English can be enjoyable: Pakkun's English Quiz	Group work, Exercises	Prep. (30 mins), Task 2 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
3	The heart of Japanese language: *One Piece* and *Kimini Todoke*	Group discussion	Prep. (30 mins), Task 3, 4 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
4	Asking for things on flight—Unit 1	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U1 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
5	Answering questions at Immigration—Unit 2	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U2 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
6	Asking for things you need—Unit 4	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U4 (90 mins), Self-study at CALL (60mins.)
7	Ordering a meal—Unit 5	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U5 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
8	Special Lesson: *Spirited Away* (Part I), Chihiro and Sen	Exercises	Prep. (30 mins), Task 5 & 6 (120 mins)
9	Special Lesson: *Spirited Away* (Part II), Sen vs. Yubaba	Exercises	Prep. (30 mins), Task 7 & 8 (120 mins)
10	Asking for directions (1)—Unit 6: Where's the station?	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U6 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
11	Asking for directions (2)—Unit 6: How do I get to the bus stop?	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Task 9 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
12	Getting money at a bank—Unit 7	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U7 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
13	Reserving a hotel room—Unit 8	Quiz, Exercises	Prep. (30 mins), Rev. U8 (90 mins), Self-study at CALL (60mins.)
14	Getting help for minor medical problems—Unit 9	Lecture, Quiz, Peer work	Prep. (30 mins), Rev. U9 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)
15	Assessing symptoms and taking vital signs	Lecture, Quiz, Peer work	Prep. (30 mins), Task 10 (90 mins), Self-study at CALL (60 mins)

到達目標	By the end of the semester, student should be able to communicate in English to a reasonable degree of effectiveness in a variety of situations. This includes demonstrating an ability to communicate basic needs and courtesies as well as a variety of interactive and transactional tasks.								
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4	○	DP5
評価方法･基準	Your grade for this course will be determined roughly as follows: class participation (30%), quizzes, impromptu writing, self-study at the CALL room and homework (30%), final exam (40%).								
履修条件	N/A								
学習相談･助言体制	Please feel free to stop by during my office hours or e-mail me for appointment.								
その他注意等	I rely on an interactive approach to teaching, and assume that students take responsibility for their own learning. I expect students to articulate the utility of this class to their life outside of class, to contribute thoughtfully to class meetings and to actively listen to their peers.								

テキスト	・Buckingham, A. et.al. (2010) *Passport 1* (2nd. Ed.) , Oxford University Press. ・Hirowatari, T. (2009) *Guess What? : A Vocab Quiz Book*, Cengage Learning.
参考文献	・Other materials will be provided in class.

教育課程：基盤教育科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位時間数	必修／選択
2	1 (30)	必修

英語R・W（Basic English for Communication II）

担当教員（担当形態）　：廣渡太郎（単独）

授業の目的	In this course, students are given the opportunity to further develop their language skills learned in the first semester with an emphasis on reading and writing. Students will improve their ability to speak with confidence and clarity to their peers and larger audiences by learning how to give simple presentations on researched topics in English using visual aids. In addition, students are required to keep an exchange journal in English with other students in order to improve their writing skills.

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	Class guidance, Write it in English: *Yoroshiku* and *Otsukare-sama*	Lecture	Task 1 (120 mins), Exchange journal (EJ) & Self-study at CALL (SSC) (60 mins)
2	Write it in English: *Yoroshiku* and *Otsukaresama*, Journal writing in English	Group work	Prep. (30 mins), Task 2 (90 mins), EJ & SSC (60mins)
3	Self-introduction speech 1: Read and analyze the model speech script	Quiz, Group discussion	Prep. (30 mins), Task 3 (90 mins), EJ & SSC (60 mins)
4	Self-introduction speech 2: Write your own self-introduction speech	Quiz, Group work	Prep. (30 mins), Task 4 (90 mins), EJ & SSC (60 mins)
5	Presentation skills 1: Structure of presentation in English, How to create an outline for your presentation	Quiz, Lecture, Exercises	Prep. (60 mins), EX 1 (60 mins), EJ & SSC (60 mins)
6	Presentation skills 2: Introduction (1)	Quiz, Lecture, Exercises	Prep. (60 mins), EX 2 (60 mins), EJ & SSC (60 mins)
7	Presentation skills 3: Introduction (2) and Body (1)	Quiz, Lecture, Exercises	Prep. (60 mins), EX 3 (60 mins), EJ & SSC (60 mins)
8	Special lesson: *StarStruck* (Part I), A girl from Michigan	Exercises	Prep. (60 mins), Task 5 & 6 (120 mins)
9	Special lesson: *StarStruck* (Part II), The relentless paparazzi	Exercises	Prep. (60 mins), Task 6 & 7 (120 mins)
10	Presentation skills 4: Body (2)	Quiz, Lecture, Exercises	Prep. (60 mins), EX 4 (60 mins), EJ & SSC (60 mins)
11	Presentation skills 5: Conclusion	Quiz, Lecture, Exercises	Prep. (60 mins), EX 5 (60 mins), EJ & SSC (60 mins)
12	Holiday season special lesson: A Charlie Brown Christmas	Quiz, Exercises	Prep. (60 mins), Task 7 & 8 (120 mins)
13	Preparation for your own presentation	Lecture, Peer work	Prep. (60 mins), Task 10 (120 mins)
14	Final presentation: The most important thing in my life	Presentation	Prep. (90 mins), Peer evaluation (30 mins), EJ & SSC (60 mins)
15	More final presentation: The most memorable event in my life	Presentation	Prep. (90 mins), Peer evaluation (30 mins), EJ & SSC (60 mins)

到達目標	By the end of the semester, student should be able to demonstrate ability to communicate meaningful messages as well as awareness of linguistic and organizational features of the presentation in English. Students should also be able to demonstrate ability to approach and perform basic writing tasks in a logical manner as well as ability to make a simple presentation on a researched topic.								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4	○	DP5	
評価方法･基準	Your grade for this course will be determined roughly as follows: class participation (30%), quizzes, exchange journal entries, self-study at the CALL room and homework (30%), final presentation in class (40%).								
履修条件	N/A								
学習相談･助言体制	Please feel free to stop by during my office hours or e-mail me for appointment.								
その他注意等	Since learning advanced language skills requires excellent study habits, this course will require substantial study time outside of class. Students will also be required to keep an exchange journal in English with their classmates outside of class throughout the semester.								

テキスト	No required textbook.
参考文献	Newspaper articles on Japan and Japanese language

教育課程： 基盤教育科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	1(30)	必修

基礎ゼミナール

担当教員（担当形態） ：◎廣渡太郎・○井上善行・○手塚裕・○新沼剛・井上忠男・木村滋・鈴木聖子・小笹典子・湊直司・齋藤和樹・重川敬三・佐藤考司（オムニバス・クラス分け）

授業の目的	大学における学びや学問研究に取り組む上で身につけておくべきスタディ・スキル（思考力・調査力・表現力・発信力）の基礎を学修する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	全体授業１：レポート・論文作成の基本 １） 作成の基本ルールと構成要素　２）文献引用の原則　３）参考文献リストの作成 （手塚）	講義・演習	課題のまとめと要点整理　(90 分)
2	全体授業２：大学における「研究」の意義 １） 研究とは　２）レポートと研究論文の差異　３）研究疑問から発表までのプロセス （井上）	講義・演習	課題のまとめと要点整理　(90 分)
3	全体授業３：情報処理と検索 １） 情報処理の基礎知識　２）文献・情報の検索方法と実際　３）図書館の活用法 （佐藤）	講義・演習	事前配布課題　(90 分)
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	[授業内容、順序、時間配分は各担当教員により異なる] 個別ガイダンス：ゼミナールの目標とテーマ、進め方、履修上の留意点 課題テーマの考え方・見つけ方 課題テーマの設定・計画立案 文献・情報の収集 文献・情報の分類・整理 収集した情報の批判的な吟味 収集した情報の分析・要約 レポートの体裁と作成方法 レポートの推敲とピアレヴュー プレゼンテーションの計画立案と構成方法 プレゼンテーション用視聴覚ツールの活用方法 プレゼンテーションの実践	演習	都度指示する

到達目標	１．図書館やインターネットなどを通じての文献・情報検索の方法を理解し、必要な情報を入手できる。 ２．自ら課題テーマを設定し、そのための適切な情報を収集し、論理構成を考えたレポートを作成できる。 ３．課題テーマに関し、伝えたいことを相手にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。									
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4	○	DP5	
評価方法･基準	調べ方（よく調べたかどうか)・まとめ方（わかりやすいレポートかどうか)〔50%〕、および、発表の仕方(説得力があるかどうか)・聴き方や意見の述べ方などの態度〔50%〕を総合的に評価する。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	各担当教員のオフィスアワーおよび E メールで対応する。 [具体的な対応方法は各担当教員によって異なるので、別途配布される資料等を参照のうえ、指示に従うこと]									
その他注意等	・最初の 3 回は全体授業として、大学におけるレポートの書き方と心構え、情報・文献検索に関する基礎知識や図書館・OA ルームの利用方法などについて学ぶ。 ・4 回目以降は各担当教員のゼミナールに分かれ、それぞれのテーマおよび資料に従って学修する。 ・各ゼミナールの詳細は、各担当教員が別途配布する資料を参照してその指示に従うこと。									

テキスト	各担当教員の指示に従う
参考文献	各担当教員の指示に従う

教育課程： 専門基礎科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	2(30)	必修

人体の構造と機能Ⅰ

担当教員（担当形態） ：今井克幸（非常勤講師）・大友和夫（非常勤講師）（複数）

授業の目的	看護学の基礎となる人体の各器官の構造と機能を学修する。

授業内容

回	授業内容（担当）		授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	第１章 人体の階層性	(p1~p36)	講義	事後：分子、細胞 (30 分)
2	器官の相互作用	(p37~p52)	講義	事後：ホメオスタシス (30 分)
3	第２章 消化器系、腸管	(p54~p65)	講義	事後：嚥下、胃 (30 分)
4	栄養素の消化	(p66~p76)	講義	事後：小腸 (30 分)
5	栄養素の吸収･輸送･貯蔵	(p77~p96)	講義	事後：消化酵素 (30 分)
6	第３章 呼吸器系、肺	(p98~p130)	講義	事後：ガス交換 (30 分)
7	血球、血液凝固	(p131~p155)	講義	事後：血液検査値 (30 分)
8	第９章 免疫系ａ	(p458~p459)	講義	事後：非特異的防御機構(30 分)
9	免疫系ｂ	(p460~p469)	講義	事後：特異的防御機構 (30 分)
10	第４章 心臓の構造	(p158~p181)	講義	事後：心周期 (30 分)
11	末梢循環，門脈、	(p182~p194)	講義	事後：肺循環、体循環 (30 分)
12	血圧調節、循環障害	(p195~p217)	講義	事後：レニン系 (30 分)
13	第５章 腎臓、糸球体、尿細管	(p221~p226)	講義	事後：ネフロン (30 分)
14	集合管、アルドステロン	(p227~p240)	講義	事後：尿の産生 (30 分)
15	体液のホメオスタシス	(p241~p248)	講義	事後：酸塩基平衡 (30 分)

到達目標	１：人体の器官の構造と機能を、分子レベルで説明できる。 ２：人体の各器官の機能が、相互に関連していることを分子レベルで説明できる。										
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4		DP5		
評価方法･基準	筆記試験 ※試験終了後、解答例を示す。										
履修条件	なし										
学習相談･助言体制	毎回の講義終了後に受け付け、回答する。										
その他注意等	イメージが重要。教科書の図を勉強して下さい。										

テキスト	・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学」坂井建雄著 医学書院 (2018) ・「イメージできる解剖生理学」ナーシング・サプリ編集委員会 編 MedicMedia 出版（2016） ※書込式の自習書
参考文献	・「人体の正常構造と機能 第３版」坂井建雄・河原克雅編 日本医事新報社（2017）

教育課程： 専門基礎科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
1	2（30）	必修

生化学・栄養学

担当教員（担当形態） ：小泉 幸央 （非常勤講師 秋田大学大学院 医学系研究科）（単独）

授業の目的	栄養素であるタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、無機質、さらには核酸といった人体の構成成分の構造や生体内でのはたらきについて学ぶ。また健康な日常生活を送るための栄養の在り方について学ぶ。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	生化学の基礎	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
2	細胞の構造と機能	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
3	アミノ酸とタンパク質	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
4	糖 質	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
5	脂 質	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
6	核酸と遺伝情報	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
7	水と無機質	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
8	ビタミンと補酵素	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
9	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義	当該回の「栄養学」に関する予習 （30 分）
10	糖質代謝	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
11	脂質代謝	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
12	タンパク質代謝	講義	当該回の「生化学」に関する予習 （30 分）
13	食事と食品	講義	当該回の「栄養学」に関する予習 （30 分）
14	健康づくりと食生活	講義	当該回の「栄養学」に関する予習 （30 分）
15	ライフステージと栄養	講義	当該回の「栄養学」に関する予習 （30 分）

到 達 目 標	栄養素であるタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、無機質、さらには核酸といった人体の構成成分の構造や生体内でのはたらきについて説明することができる。また健康な日常生活を送るための栄養の在り方についても説明することができる。								
D P 要 素	DP1		DP2	○	DP3		DP4		DP5
評価方法･基準	試験 85%、課題 5%、講義への参加度 10%による総合評価。出席時間数 3 分の 2 以上が試験の受験資格。 課題に対するフィードバック：本教科の課題には正解がありません。課題を行うことにより、皆さんが健康な食生活を鑑みることを期待します。								
履 修 条 件	なし								
学習相談･助言体制	E メール（ykoizumi@med.akita-u.ac.jp）で随時受け付けます。出席カードへの記載も可。								
その他注意等	なし								

テ キ ス ト	・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 」三輪一智（医学書院） ・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 」中村丁次（医学書院）
参 考 文 献	なし

教育課程： 専門基礎科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	2（30）	必修

人体の構造と機能Ⅱ

担当教員（担当形態） ：今井克幸（非常勤講師）・大友和夫（非常勤講師）（複数）

授業の目的	看護学の基礎となる人体の各器官の構造と機能を学修する。

授業内容

回	授業内容（担当）		授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）	
1	第６章 自律神経	(p252~p259)	講義	交感神経系	（復習 30 分）
2	内分泌、下垂体	(p260~p270)	講義	ホルモン	（復習 30 分）
3	全身の内分泌器官	(p270~p287)	講義	膵臓	（復習 30 分）
4	ホルモン分泌、フィードバック	(p288~p294)	講義	副腎	（復習 30 分）
5	第７章 全身骨格、関節、	(p298~p308)	講義	骨組織	（復習 30 分）
6	体幹･胸部の骨･筋	(p309~p324)	講義	骨･筋の名称	（復習 30 分）
7	上肢･下肢･頭の骨･筋	(p325~p358)	講義	骨･筋の名称	（復習 30 分）
8	筋の収縮、	(p359~p371)	講義	筋線維	（復習 30 分）
9	第８章 神経系、脊髄、脳幹	(p374~p387)	講義	ニューロン	（復習 30 分）
10	大脳、辺縁系、髄膜	(p388~p399)	講義	大脳皮質	（復習 30 分）
11	伝導路、脳神経、脊髄神経	(p400~p424)	講義	錐体路	（復習 30 分）
12	第９章 感覚器、視覚	(p425~p457)	講義	眼球	（復習 30 分）
13	聴覚、皮膚	(p425~p457)	講義	内耳、痛覚	（復習 30 分）
14	第 10 章 生殖器、発生学	(p480~p522)	講義	性周期、胎盤	（復習 30 分）
15	第 11 章 体表からみた人体	(p524~p532)	講義	体表の血管	（復習 30 分）

到達目標	１：人体の器官の構造と機能を、分子レベルで説明できる。 ２：人体の各器官の機能が、相互に関連していることを分子レベルで説明できる。									
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	
評価方法･基準	筆記試験 ※試験終了後、解答例を示す。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	毎週の講義終了後									
その他注意等	イメージが重要です。教科書の図やシェーマを中心に勉強して下さい。									

テキスト	・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学」坂井建雄著 医学書院（2018） ・「イメージできる解剖生理学」ナーシング・サプリ編集委員会 編 MedicMedia 出版（2016） ※書込式の自習書
参考文献	・「人体の正常構造と機能 第３版」坂井建雄・河原克雅編 日本医事新報社（2017）

教育課程： 専門基礎科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1（30）	必修

薬理学

担当教員（担当形態） ： 藤山信弘（非常勤講師　秋田大学医学部付属病院　血液浄化療法部）（単独）

授業の目的	1　医薬品が効果を発揮する仕組みをイメージできるようになること。 2　医療現場で遭遇する医薬品の副作用に気づける洞察力を磨くこと。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	臨床薬理学概論Ⅰ：医薬品とは、副作用	講義	テキスト第1章 事後60分
2	臨床薬理学概論Ⅱ：剤形、薬の体内動態、薬物相互作用、高齢者及び小児	講義	テキスト第1章 事後60分
3	末梢神経系：自律神経系作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	講義	テキスト第2章 事後60分
4	循環器系薬剤Ⅰ：高血圧薬、心臓作用薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬	講義	テキスト第4章 事後60分
5	循環器系薬剤Ⅱ：輸液・腎臓作用薬、血液作用薬	講義	テキスト第4章 事後60分
6	呼吸器系薬剤：気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬	講義	テキスト第6章 事後60分
7	消化器系薬剤：消化性潰瘍治療薬、制吐薬、下剤、下痢止め	講義	テキスト第7章 事後60分
8	中枢神経系Ⅰ：全身麻酔薬、鎮痛薬、不眠症、抗うつ薬、抗精神病薬	講義	テキスト第3章 事後60分
9	中枢神経系Ⅱ：抗てんかん薬、パーキンソン病・認知症治療薬	講義	テキスト第3章 事後60分
10	生活習慣病系：糖尿病治療薬、高脂血症治療薬、通風治療薬	講義	テキスト第4・8章 事後60分
11	内分泌系・生殖器系薬剤：甲状腺治療薬、骨粗鬆症、前立腺肥大治療薬、陣痛誘発薬、不妊症治療薬	講義	テキスト第8章 事後60分
12	抗炎症薬：抗アレルギー薬、ステロイド、NSAIDs、免疫抑制剤	講義	テキスト第5章 事後60分
13	抗生物質・消毒薬：抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	講義	テキスト第9章 事後60分
14	抗悪性腫瘍薬：化学療法、分子標的薬	講義	テキスト第10章 事後60分
15	臨床薬理学：アドヒアランス、中毒、薬害問題	講義	テキスト第1章等 事後60分

到達目標	1　医薬品による作用する仕組みを理解できる。 2　医薬品による副作用が生じる原理を理解できる。 3　医薬品が「どのような作用で」「どこに効くのか」「なぜ効くのか」をイメージできる。 4　基本的な医薬品の作用機序を説明できる。								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4		DP5
評価方法･基準	筆記試験90%、小テスト10%								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	講義の前後やメールによる対応								
その他注意等	生化学の基本知識を理解していること。								

テキスト	「わかりやすい薬理学　第3版」小口勝司編（ヌーヴェルヒロカワ）
参考文献	・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［2］生化学」三輪一智（医学書院） ・「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［3］栄養学」中村丁次（医学書院） ・「トートラ人体の構造と機能」桑木共之　他編（丸善出版）

教育課程： 専門基礎科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1（30）	必修

疾病の成り立ちと回復の促進Ⅰ病理・病態

担当教員（担当形態）：西島亜紀（非常勤講師　秋田大学大学院医学系研究科 分子病態学・腫瘍病態学講座）（単独）

授業の目的	臨床医学における診断や治療を理解するために、病気の原因とそれに対する生体の反応、病気の経過・転帰などについての一般的な原理・原則を学びます。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	病気と病理学，老化と死	講義	講義終了後に各自で演習課題を学習（30 分）
2	組織・細胞に生じる異常と修復，炎症	講義	
3	免疫とその異常，止血と循環	講義	
4	先天異常，感染症	講義	
5	感染症，環境による疾患	講義	
6	癌	講義	
7	生活習慣病，難病	講義	
8	循環器，造血器・リンパ節・脾臓の疾患	講義	
9	肺・胸膜・縦隔，消化管の疾患	講義	
10	消化管，肝臓・胆道・膵臓の疾患	講義	
11	内分泌臓器・乳腺，腎・泌尿器の疾患	講義	
12	女性生殖器・男性生殖器の疾患	講義	
13	中枢神経系，運動器の疾患	講義	
14	統計部・感覚器，皮膚，小児の疾患	講義	
15	学習した内容の課題と展望	講義	

到達目標	テキストやスライドを参考にして、病気のメカニズムを理解し、説明できることを目標とします。								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3		DP4		DP5
評価方法･基準	筆記試験 100％ 合否発表に合わせ、科目全体としての到達状況の評価や平均点等について周知します。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	講義時、出席カードおよび講義終了後に受け付け、その場で、もしくは次回講義時に回答								
その他注意等	高校で生物を履修していない学生は特に生命科学等の授業内容を十分理解しておくこと								

テキスト	深山正久「疾病の成り立ちと回復の促進①　病理学」第２版、メヂカルフレンド社、2012 年
参考文献	渡辺照男「カラーで学べる病理学」第４版、ヌーヴェルヒロカワ、2014 年

教育課程： 専門基礎科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1（30）	必修

疾病の成り立ちと回復の促進Ⅱ外科

担当教員（担当形態） ：木村滋・石河紀之(非常勤講師　秋田赤十字病院)（オムニバス）

授業の目的	外科的の代表的な疾患について学び理解する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	総論（木村）	講義	事前に教科書・参考文献を読む. 配布された資料で復習する. （各 90 分）
2	泌尿器科（木村・下田直威）		
3	消化器外科疾患（木村・宮澤秀彰）		
4			
5	呼吸器外科疾患（木村・齋藤芳太郎）		
6	脳血管外科疾患（木村・西巻啓一）		
7	心臓血管外科疾患（木村・土田昌一）		
8	整形外科総論（石河）		
9	骨折総論・各論（石河）		
10	四肢体幹骨の疾患・外傷（石河）		
11	関節の疾患・外傷（石河）		
12	脊椎脊髄の疾患・外傷（石河）		
13	末梢神経の疾患・外傷（石河）		
14	骨代謝，骨腫瘍等（石河）		
15	学習した内容の課題と展望（石河）		

到達目標	代表的な疾患についてその概念、病因、病態、臨床症状と検査診断、主な治療方法とその予後について修得する。								
DP要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4		DP5 ○
評価方法･基準	筆記試験（100%） 合否発表に併せ、科目全体としての到達状況の評価などについて周知します。 レポートを課した場合は、傾向や問題点についてコメントし、理解の徹底を図ります。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	講義時に受け付ける．学務課教務係を通して受け付ける。								
その他注意等	石河）臨床を感じられる講義となる。講義終了時には各項目について論述できることが目標。								

テキスト	・「臨床病態学３」（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ）北村聖
参考文献	なし

教育課程：専門基礎科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	2(60)	必修

疾病の成り立ちと回復の促進Ⅲ機能別

担当教員（担当形態）　：　木村滋・吉川晴夫（非常勤講師　御野場病院）（オムニバス）

授業の目的	・医療においては、適切な診断をなし、診断に基づいて適切な治療法を選択することが重要である。診断のための情報収集と診察方法、基本的な検査方法について学ぶ。また治療法の種類と特徴を知り、病態に応じた適切な治療法が選ばれることを理解する。（吉川） ・各臓器・器官の機質的および機能的障害により発症する成人期及び老年期における代表的な疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患、血液疾患、中枢神経系・末梢神経系疾患、腎疾患、泌尿器疾患、自己免疫疾患等）について、その概念、病態、臨床症状、検査法の適応、治療法、予後及び予防法について学ぶ。（木村）

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	診察方法概論、診察方法の実際（医療面談）（吉川）	講義	事前に配布資料を読んでおく（30分）
2	診察方法の実際（身体診察の基礎と進め方）、検査方法概論（吉川）	講義	
3	基本的な検体検査（一般検査･血液検査･臨床生化学）（吉川）	講義	
4	基本的な検体検査（免疫血清検査･微生物検査･腫瘍マーカー）（吉川）	講義	
5	生理機能検査（心電図･肺機能）（吉川）	講義	
6	生理機能検査（動脈血ガス分析･動脈血酸素飽和度） 画像診断（X線単純撮影）（吉川）	講義	
7	画像診断（血管造影･CT･MRI･PET･超音波）、医療被曝 内視鏡検査（上部消化管内視鏡）（吉川）	講義	
8	内視鏡検査（大腸内視鏡･治療内視鏡） 治療方法概論（吉川）	講義	
9	治療方法（薬物療法･栄養療法･酸素療法･呼吸管理･禁煙）（吉川）	講義	
10	治療方法（リハビリテーション･放射線療法･緩和ケア）（吉川）	講義	
11 12	呼吸器疾患（木村）	講義	
13 14	循環器疾患（動脈硬化・高血圧を含む）（木村）	講義	
15 16	腎尿路疾患（木村）	講義	
17	消化器疾患（消化管、内科的疾患）（木村）	講義	
18	消化器疾患（肝胆膵、内科的疾患）（木村）	講義	
19	代謝性疾患（糖尿病、他）（木村）	講義	
20	代謝性疾患（糖尿病以外）（木村）	講義	
21	内分泌性疾患（木村）	講義	
22	神経疾患（中枢性）（木村）	講義	
23	神経疾患（末梢性）・神経金疾患（木村）	講義	
24	認知症（木村）	講義	
25	てんかん・片頭痛他（木村）	講義	
26	感染症（木村）	講義	
27	自己免疫疾患（木村）	講義	
28	アレルギー性疾患（木村）	講義	

29	血液疾患　（木村）	講義	
30	血液凝固疾患・輸血療法　（木村）	講義	

到 達 目 標	・問診と身体診察の基礎について説明することができる ・病気の診断や治療にかかせない検査の概要を説明することができる ・治療の種類とその特徴を説明することができる ・各臓器における機能と老化による変化の理解、代表的疾患の理解と観察･診断要点理解、治療法の選択、効果、注意点、疾患相互関連を理解し、療養生活の指導・注意点を具体的に述べることができる。								
ＤＰ 要 素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5
評価方法･基準	筆記試験 100% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 ・合否発表に併せ、得点分布や平均点などを伝え、誤答率の高い問題については解説を行う。（吉川） ・合否発表に併せ、科目全体としての到達状況の評価や平均点等について周知する。（木村）								
履 修 条 件	特になし								
学習相談･助言体制	質問は、出席票に記入して受け付け、後日講義の中で解答する（吉川） 質問は、講義中、オフィスアワー、メールで可能（木村）								
その他注意等	なし								

テ キ ス ト	なし（配付資料）
参 考 文 献	臨床病態学　総論　第２版：総編集　北村　聖（ヌーヴェルヒロカワ）（吉川） 看護のための臨床病態学改訂３版：編集浅野嘉延、他（南山堂）（木村）

教育課程： 専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1・2	2（60）	必修

フィジカルアセスメント

担当教員（担当形態） ：◎菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美・児玉悠希・熊地美枝・佐藤紘子・播摩優子・渡邊正樹・渡邊美奈子・渡部加奈子・鈴木真人（複数）

授業の目的	フィジカルアセスメントに関する知識・技術を習得することにより、看護実践に活用できる能力を養うことを目的とする。看護に必要な情報を収集するための身体状況を系統的にアセスメントするための観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)及び、観察した結果から対象の健康状態、看護ケアの必要性を考える過程をPBL・テュートリアル教育方法で展開する。

授業内容

授業内容（担当）	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1. オリエンテーション ・テュートリアルとはどのような学習法か ・フィジカルアセスメントとは ・授業の進め方 2. 演習内容・方法 ・学習形態は＜PBL・テュートリアル＞で展開する ・PBL テュートリアルとは、学生が8人～9人の小グループで、与えられた「課題シート」などから自分たちが学ぶべきことを引き出し、それらの項目について各自で調べてきた上で話し合い、理解を深めながら、問題を解決していく学習方法である。テュータと呼ばれるコーチ役の教員が学習方法を支援する。自己学習では、図書館、視聴覚教材、模型、模擬患者、リソースパーソンなどを活用する。 ・学生 8～9 名にテュータ 1～2 名のグループで5ユニット(各 4 セッション)をグループ毎にローテーションして学習する(年間ローテーション予定表は別紙配布) Ⅰユニット:頭部・眼・脳神経 Ⅱユニット: 胸部(呼吸器系) Ⅲユニット:胸部(循環器系) Ⅳユニット: 腹部(生殖器含む) Ⅴユニット:骨格系、知覚・腱反射 1 セッション:ディスカッション 2 セッション:プレゼンテーション、ディスカッション 3 セッション:実技チェック 4 セッション:プレゼンテーション、ディスカッション ※各ユニット終了時には学びのファイルを提出 3. 実技試験(OSCE で行う)2月初旬 4. 筆記試験　　2月初旬	1 セッション後: 2セッションでの発表の準備 2 セッション後: 3 セッションの実技チェックの事前学習練習 3セッション後 4 セッションでの発表の準備 4セッション後: 提出ファイルの作成

到達目標	1. フィジカルアセスメントが看護の対象者の身体機能を総合的に把握できる方法であることを理解し説明できる。 2. 与えられた課題シートをもとに、自己学習、グループ学習を行い、事例患者の健康状態を評価できる。 3. クライエントの身体各部の診察を手順に基づいて実践することができる。 4. クライエントの身体各部の診察の際に必要な知識を記述することができる。 5. ＰＢＬ・テュートリアル教育方法で学んだことの意義を自分の言葉で表現できる。

ＤＰ要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	

評価方法・基準	実技試験の合格（単位認定の必要条件）。筆記試験 50%、 ５つのユニットそれぞれでの態度・レポート評価 50% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 ・各ユニット担当教員よりファイル返却時に学びのフィードバックがあります。 ・実技試験（OCSE）と筆記試験は講評の時間を設けています。
履修条件	なし
学習相談・助言体制	・質問等は各教員がオフィスアワーで回答する。担当教員の各研究室においで下さい。 ・学生同士で演習を行うにあたり気がかりなことがある場合には、教員に相談のこと。
その他注意等	・規定時間の 4/5 以上の出席が実技、および筆記試験の受験の必要条件になる。 ・PBL で看護者としての基本技術であるフィジカルアセスメントを学習します。学生同士で行う実技もありますのでフィジカルアセスメントを受ける立場として感じたことも積極的に意見交換して下さい。

テキスト	・藤崎郁,伴信太郎 ;「フィジカルアセスメント完全ガイド」第 2 版,学研,2012
参考文献	・各ユニットの教員から紹介があります

教育課程：専門科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	1（15）	必修

基礎看護学Ⅰ概論

担当教員(担当形態)：宮堀真澄・菖蒲澤幸子・舟越五百子・新田純子(オムニバス)

授業の目的	1　看護学全体を概観し、基盤となる内容を学ぶ。看護の歴史的発展および看護理論から、目的・本質を中心に看護の原理を理解し、また、看護の対象である健康な人あるいは健康問題を持つ人を、基本的知識をもとに理解する。 2　法規に基づいた活動ができる現在の看護の方法やシステム全体を知る。そして、看護活動については、特に赤十字の理念も加えて考察する。 3　看護を取り巻く環境の変化と発展する看護を展望し、今後の課題を考察する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 (学習課題・取組時間)
1	看護学の学習について 看護の概念、看護の本質、看護の役割と機能、赤十字の理念と看護活動　(舟越)	講義、GW	事前:テキスト第 1 章を読む(45 分) 事後:資料で復習する(45 分)
2	看護の対象の理解、看護および看護学の歴史的変遷　(舟越)	講義、GW	事前:テキスト第 2・4 章を読む(45 分) 事後:資料で復習する(45 分)
3	健康課題と健康レベル、看護と看護理論　(新田)	講義、GW	事前:テキスト第 3 章を読む(45 分) 事後:資料で復習する(45 分)
4	看護の技術（コミュニケーション・ケア)、身体的・心理社会的アセスメント、看護過程　(菖蒲澤)	講義	事前:テキスト第 1・2 章を読む(30 分) 配布資料を読む(30 分) 事後:資料で復習する(30 分)
5	家族、地域、社会と看護、看護のアプローチ、看護の機能、責任、義務、多職種連携　(宮堀)	講義、GW	事前:テキスト第 1・2 章を読む(30 分)、 配付資料を読む(30 分) 事後:資料で復習する(30 分)
6	看護における倫理、看護とリスクマネジメント　(舟越)	講義	事前:テキスト第 5、第 6 章を読む(45 分) 事後:資料で復習する(45 分)
7	看護サービス、看護と法、国際化と看護　(菖蒲澤)	講義、GW	事前:テキスト第 6、7 章を読む(45 分) 事後:資料で復習する(45 分)
8	学習した内容の課題と展望　(舟越)	講義、試験	事前:第 1-7 回のレジュメを復習(60 分) 事後:試験解答の確認(30 分)

到達目標	1. 看護を構成する要素(人間、環境、健康、看護)を理解し、看護の概念(目的・本質・原理)を考察できる。 2. 看護の対象である、健康あるいは健康問題を持つ個人・家族・集団を、全体的存在として理論的基盤から述べることができる。 3. 看護の専門性、役割、機能を医療・福祉全体との関連、社会との関連で説明できる。 4. 看護活動に必要な基礎的な思考プロセスと看護提供システムについて述べることができる。 5. 看護の現状と課題、方向性を考察し、「看護とは何か」自己の考えを表現できる。

DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	

評価方法・基準	筆記試験 80%、レポート・感想文など授業の内容に主体的に参加できたか 20% 「課題(試験、レポート等)に対するフィードバック」 ・筆記試験後:回答結果に関する傾向や見解について一斉通知する。 ・レポート等回収後:授業の中で結果に関する傾向や見解、よくできた例について解説する。
履修条件	特になし
学習相談・助言体制	学生各自で教員にメールで連絡して、相談日時を決める。個別に対応する。
その他注意等	・看護について自分で表現できるように学習し、自主的に授業に参加しましょう。 ・積極的なグループディスカッションを通して多様な考えを理解し、多面的に自分の考えを見つめ直しましょう。 ・授業内容の理解を深めるため、関連書籍や参考文献を読んで授業に参加しましょう。

テキスト	『系統看護学講座専門分野Ⅰ:看護学概論基礎看護学①』茂野香おる他編(医学書院)2018 『看護覚え書』F.ナイチンゲール(現代社)
参考文献	『看護の基本となるもの』V.ヘンダーソン(日本看護協会出版会) 『看護理論－看護理論20の理解と実践への応用　改定第 2 版』筒井真優美編(南江堂) 『系統看護学講座　専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②』茂野香おる他編著(医学書院)2018

教育課程： 専門科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

ｾﾒｽﾀｰ	単位(時間数)	必修／選択
1	2(60)	必修

基礎看護学Ⅱ看護技術１

担当教員（担当形態） ： 宮堀真澄・菖蒲澤幸子・舟越五百子・木下彩子・北林真美（複数）

授業の目的	１.看護の対象と看護者との人間関係を良好に保つために必要な知識・スキルを学ぶ。そのうえで、看護実践するための基本的な看護技術の知識や技術を学び修得する。 ２.実際に看護技術を体験し、どのような援助が望ましいか考え、学びを深める。また、この学習内容は、患者の日常生活の援助に適用することができる。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	授業ガイダンス、人間関係の基本的意義、コミュニケーションとは何か （菖蒲澤幸子）	講義	事前:ﾃｷｽﾄ 1:第 1･3 章,ﾃｷｽﾄ 2:第 2 章を読む(30 分) 事後:本日配付資料を読んでくる(30 分)
2	援助的人間関係とは何か （宮堀真澄）	講義	事後:事例シナリオ①を読んで行ったロールプレイでの学びをまとめる。(30 分)
3	看護における面接・観察(1)「傾聴・共感」「リフレクション」 （菖蒲澤幸子）	講義	事前:ﾃｷｽﾄ 1:第 4 章を読む(30 分)、前回の内容を確認し、良い面接の進め方について考え、授業に臨む。(30 分)
4	看護における面接・観察(2)「面接の進め方」 （菖蒲澤幸子）	講義	事後:事例シナリオ②を読んで行ったロールプレイでの学びを纏める。②で意図して使用した面接技法など(30 分)
5	看護における面接・観察(3)「情報を正しく把握する」 （菖蒲澤幸子）	講義	事後:患者役、看護師役の両方の役割を行って気づいたこと、感じたことを言語化する。(30 分)
6	看護技術とは、環境調整、活動と休息 （舟越五百子）	講義	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 1･5･10･11 章を読む(30 分)
7	体位変換、ベッドメーキング、シーツ交換 （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 5･8 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
8	体位変換、ベッドメーキング、シーツ交換 （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
9	移動・移送 （菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 10 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
10	移動・移送 （菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
11	感染予防1(衛生学的手洗い、スタンダードプリコーション) （菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 6 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
12	感染予防1(衛生学的手洗い、スタンダードプリコーション) （菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
13	バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧測定)罨法 （木下彩子、菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 4･16 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
14	バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸、血圧測定)罨法 （木下彩子、菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
15	身体の清潔(清拭・足浴) （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 12 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
16	身体の清潔(清拭・足浴) （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
17	身体の清潔(洗髪) （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 12 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
18	身体の清潔(洗髪) （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
19	身体の清潔(入浴シャワー浴) （舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美）	講義・デモ	事前:ﾃｷｽﾄ 2:第 12 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)

20	身体の清潔(入浴シャワー浴) (舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美)	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
21	《総合技術チェック》 ①バイタルサイン (菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美)	総合技術チェック	事前:技術練習して臨む(60 分)
22	《総合技術チェック》 ②身体の清潔 (菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美)	総合技術チェック	事前:技術練習して臨む(60 分)
23	栄養(食事の準備、食事介助) 食後の口腔ケア (菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美)	講義・デモ	事前:テキスト 2:第 13 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
24	栄養(食事の準備、食事介助) 食後の口腔ケア (菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美)	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
25	排泄(便器尿器を用いる援助) (菖蒲澤幸子、北林真美、舟越五百子)	講義・デモ	事前:テキスト 2:第 14 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
26	排泄(便器尿器を用いる援助) (菖蒲澤幸子、北林真美、舟越五百子)	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
27	排泄(オムツ交換、オムツ交換後の陰部の清潔ケア) (菖蒲澤幸子、北林真美、舟越五百子)	講義・デモ	事前:テキスト 2:第 14 章を読む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
28	排泄(オムツ交換、オムツ交換後の陰部の清潔ケア) (菖蒲澤幸子、北林真美、舟越五百子)	演習	事前:技術練習して臨む(30 分) 事後:手技を確認(30 分)
29	ベッド上安静にある対象の日常生活援助:清潔の援助 (舟越五百子、菖蒲澤幸子、北林真美)	課題演習	事前:十分に練習を重ねて課題演習に臨む(90 分)
30	ベッド上安静にある対象の日常生活援助:排泄の援助 (菖蒲澤幸子、舟越五百子、北林真美)	課題演習	事前:十分に練習を重ねて課題演習に臨む(90 分)

到達目標	1. 人間関係の意義について説明できる。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義について説明できる。 3. 看護面談にコミュニケーションスキルを応用できる。 4. 他者との関わりを通して自分自身の思考・感情・行動の特性を見出し、それらが看護の対象との人間関係に及ぼす影響について説明できる。 5. 以下の日常生活援助ができる。 衛生学的手洗い、ガウンテクニック、体位変換、ベッドメーキング、シーツ交換、移動・移送バイタルサイン、身体計測、身体の清潔、栄養(食事介助)、排泄(おむつ交換、便器尿器使用)、罨法 6. 学んだ技術を患者にあわせて援助する方法が理解できる								
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法・基準	筆記試験 75%、面接技法演習 15%、レポート評価 10%								
履修条件	なし								
学習相談・助言体制	学生各自で教員にメールで連絡して、相談日時を決める。個別に対応する。								
その他注意等	・授業は、「講義(視聴覚学習を含む)」「デモンストレーション(デモ)」「演習」の 3 つの形態で実施されます。演習では、患者役の体験も大いに活かして看護技術を学習しましょう。また、既習内容を予習復習して、演習に臨みましょう。 ・原則として一斉に講義を受け、3 クラスごとの少人数制でデモと演習を行います。演習は 4 名の教員が担当します。 ・積極的な自己練習が必要な科目です。一つひとつの行為の根拠を明確にしながら練習します。 演習および自己練習の際には、身だしなみを整え、動きやすい服装、室内専用ズックを着用してください。 ・2 回行われる総合技術チェックに合格した場合に限り、単位が認定されます。								

テキスト	1. 長谷川浩著:系統看護学講座 基礎分野 人間関係論(第 2 版)、医学書院 2.「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子(メディカ出版)
参考文献	「看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術」医療情報科学研究所編(メディックメディア)

教育課程： 専門科目(基礎看護基礎看護学)
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

ｾﾒｽﾀｰ	単位(時間数)	必修／選択
2	2（30）	必修

基礎看護学Ⅲ看護技術２

担当教員（担当形態） ： 宮堀真澄・菖蒲澤幸子・舟越五百子・木下彩子・北林真美（複数）

授業の目的	看護の対象の診療の補助（無菌操作、与薬、採血、輸液療法とその管理、輸血、酸素療法などの呼吸の援助、栄養療法、浣腸・導尿、検査）を理解し、その援助方法を学ぶ。また、安楽の援助や危篤時の看護など、対象や家族の心理に配慮した援助を学ぶ。これらの診療の補助技術を対象に援助する具体的方法を考えることができる。

授業内容

回	授業内容 （担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	日常生活援助技術の知識や実技の到達を確認するためのまとめ （舟越五百子・宮堀真澄・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 1 章を読む（30 分）
2	感染予防（無菌操作に伴う手洗い、滅菌物の取り扱い） （菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 6 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
3	与薬（内服薬、坐薬、外用薬） （舟越五百子・菖蒲澤幸子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 19 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
4	採血／検査（検体の採取と取り扱い） （菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 18 章を読む（45 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
5	経皮的・侵襲的検査の方法と援助 （菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 18 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
6	体液バランス・循環（輸液管理／中心静脈輸液／輸血） （舟越五百子・菖蒲澤幸子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 19 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
7	輸液管理／中心静脈輸液／輸血の実際 （舟越五百子・菖蒲澤幸子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 19 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
8	呼吸（安楽な体位/排痰を促す技術/吸入/吸引/酸素投与） （菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 15 章を読む（45 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分
9	栄養（経管栄養法・胃管カテーテルの管理／摂食・嚥下運動） （菖蒲澤幸子・舟越五百子・木下彩子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 13 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
10	排泄（浣腸／導尿による排液） （菖蒲澤幸子・北林真美・舟越五百子）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 14 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する
11	排泄（各種ドレーンによる排液） （菖蒲澤幸子・北林真美・舟越五百子）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 18 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
12	安楽（マッサージ／リラクゼーションなど） （舟越五百子・菖蒲澤幸子・北林真美）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 17 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
13	救急時の看護（BLS／ALS／止血法・包帯法など） （北林真美・菖蒲澤幸子・舟越五百子）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 21 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
14	危篤時の看護（患者・家族へのケア／グリーフケアなど） （菖蒲澤幸子・北林真美・舟越五百子）	講義・演習	事前：ﾃｷｽﾄ第 22 章を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）
15	診療の補助にかかる技術の知識や実技の到達を確認するためのまとめ（菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美）	講義・演習	事前：配布資料を読む（30 分） 事後：留意点を踏まえ手技を確認する（30 分）

到 達 目 標	1. 看護職が行う診療の補助技術の種類や内容を述べることができる。 2 以下の診療の補助を演習し、方法を述べることができる。 （無菌操作、与薬、採血、輸液療法とその管理、輸血、酸素療法など呼吸の援助、栄養療法、浣腸・導尿、検査） 3 安楽の援助、危篤時の看護を対象や家族の心理に配慮して援助する方法を述べることができる。 4 学んだ技術を対象に活用・援助する方法を具体的に考えることができる。									
ＤＰ 要 素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	
評価方法・基準	筆記試験 70%、小テスト・小レポート 30%									
履 修 条 件	なし									
学習相談・助言体制	学生各自で教員にメールで連絡して、相談日時を決める。個別に対応する									
その他注意等	・授業は、「講義」（デモンストレーションを含む）「視聴覚学習」「演習」を行います。 ・自主的な復習が必要な科目です。学習した援助の方法を自己学習して確実に習得してください。自己練習の際には、動きやすい服装、室内専用ズックを着用してください。									
テ キ ス ト	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」志自岐康子（メディカ出版）2017.									
参 考 文 献	「看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術」医療情報科学研究所編（メディックメディア）2014.									

教育課程： 専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（30）	必修

看護展開論

担当教員（担当形態）：菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美（複数）

授業の目的	対象の個別性に合わせた看護を系統的、科学的に実施するために看護過程を学ぶ。対象が身体的、心理・社会的側面を持つ統合体であることを意識して、人間関係を基盤に問題解決のプロセスをふむ方法を理解する。講義では、看護過程の基本的事項と必要性および各種理論や既習のアセスメント・看護技術の活用のしかたを学習する。さらに、事例を通して看護過程を展開する能力を修得する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 (学習課題・取組時間)
1	看護過程の概念と基本的知識・看護過程に活用する看護理論事実描写の訓練課題の提示(菖蒲澤)	講義	[事後]事実描写の訓練課題の取り組む授業資料、テキストを読む(60 分)
2	事実描写の訓練(課題を発表、ふりかえりを追加し課題提出。看護過程の前提となる事実描写の重要性(菖蒲澤)	講義・GW	[事後]授業資料、テキストを読む(30 分)
3	看護過程の各段階(情報収集・アセスメント) (菖蒲澤)	講義	[事後]授業資料、テキストを読む(30 分)
4	看護過程の各段階(全体像の描写)(菖蒲澤)	講義	[事後]授業資料、テキストを読む(30 分)
5	看護過程の各段階(看護診断過程・実践・評価)(菖蒲澤)	講義	[事後]授業資料、テキストを読む(30 分)
6	看護過程の用紙の説明、事例提示と個人ワーク、GWの進め方オリエンテーション(菖蒲澤)	講義	[事後]授業資料を読む(60 分)
7	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙1～2 (菖蒲澤・舟越・北林)	個人ワーク	[事後]事例の個人ワーク部分に取り組む(60 分)
8	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙3情報解釈 (菖蒲澤・舟越・北林)	個人ワーク	[事後]事例の個人ワーク部分に取り組む(60 分)
9	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙3情報解釈のつづき(菖蒲澤・舟越・北林)	個人ワーク	[事後]事例の個人ワーク部分に取り組む(60 分)
10	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙4関連図による全体像の描写 (菖蒲澤・舟越・北林)	個人ワーク	[事後]事例の個人ワークを完成し提出する(60 分)
11	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙4関連図による全体像の描写～記録用紙5看護診断看護計画(菖蒲澤・舟越・北林)	GW	[事後]事例を個人でも検討する(60 分)
12	看護過程の実際・紙上事例の展開　記録用紙5看護診断看護計画(菖蒲澤・舟越・北林)	GW	[事後]事例を個人でも検討する(60 分)
13	看護過程・紙上事例の展開の発表(菖蒲澤・舟越・北林)	GW・発表	[事前]発表の準備(60 分)
14	紙上事例の展開の発表のまとめ(菖蒲澤・舟越・北林)	講義	[事後]GW および発表で出た疑問をまとめる提出する個人課題(学修の取り組み)内容を修正する。(60 分)
15	看護過程の記録(看護記録の概念、記録方式、電子カルテ記録、クリニカルパス、標準看護計画等(菖蒲澤)	講義	[事後] 授業資料、テキストを読む(30 分)

到達目標	1. 看護過程の基本的な考え方を記述する。 2. 看護過程の展開について、理論的に根拠を立ててアセスメントする。 3. 看護診断を行い、看護目標と解決に向けて看護介入を計画立案し記述する。 4. 看護過程の評価の方法を記述する。 5. 紙上事例の看護過程の展開を記述した内容を用いて説明する。 6. 看護過程を用いることの意義を述べることができる。								
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法・基準	筆記試験(70%)・個人課題の提出(30%) 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 合否発表に合わせ、科目全体としての到達状況の評価や平均点等について周知します。 提出された個人ワークの到達状況を全体に周知します。個人ワークに関しては個別にフィードバックします。								
履修条件	なし								
学習相談・助言体制	オフィスアワーを活用またはメールで受け付け次回授業時に回答								
その他注意等	「基礎看護学Ⅰ概論」「基礎看護学Ⅱ看護技術1」で学んだ内容を活用して学習すること。 看護過程は、今後の授業や実習で使用します。解らないことがあったら、そのままにせず、理解し活用できるようにしましょう。								

テキスト	T.ヘザー.ハードマン『NANDA-I 看護診断　定義と分類 2015-2017』医学書院(2016) マジョリーゴードン『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』照林社(2006)
参考文献	随時、紹介する

教育課程： 専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（45）	必修

基礎看護学実習Ⅰ

担当教員（担当形態）：菖蒲澤幸子・舟越五百子・北林真美・児玉悠希・渡邊正樹・播摩優子・鈴木真人・渡邊美奈子・渡部加奈子・宮堀真澄（クラス分け）

授業の目的	医療施設において療養生活を送る対象者を受け持ち、生活環境の整え方、療養生活の過ごし方を知る。これまでに学んだことを統合して、対象に必要な日常生活の援助を考え実施する方法を学ぶ。

授業内容

授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1.「基礎看護学実習Ⅰ」実習要項に基づき実施する。 2. 実習場所:秋田赤十字病院 実習時間:8:30～15:30 3. 実習方法 (1)学内オリエンテーション ①カリキュラムにおける実習の位置づけ、看護学実習全体の留意事項 ②基礎看護学実習Ⅰの概要 ③基礎看護学実習Ⅰの病棟、患者の概要	オリエンテーション	
(2)実習の実際(病棟) ①入院患者1名を4日間受け持つ。 ②受け持ち患者に日常生活援助する。 ③受け持ち患者を想定して学内演習する。(2時間×2日) ④病棟内オリエンテーション(実習1日目) ⑤カンファレンス: リスクカンファレンス(1回)、日々のカンファレンス(毎日) (3)臨地実習報告会(実習最終日) 4. 実習記録 実習の実際、学んだことをふり返る。また、自己の看護観を言語化する。	実習 カンファレンス	学内で、患者を想定した技術の練習

到達目標	1.対象が過ごしている療養環境を知り、望ましい環境はどのようなものか考える 2.対象とかかわり、必要な日常生活援助を考える 3.看護学生としての責任ある行動をとることができる 4.看護とはどのようなものか、また自己の課題は何かを実習全体から振り返る								
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	基礎看護学実習Ⅰ評価表を基に評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 実習の評価は、実習担当教員による個別面談でフィードバックします。								
履修条件	・「基礎看護学Ⅰ概論」「基礎看護学Ⅱ看護技術１」の単位を修得もしくは見込みであること。 ・実習前までにワクチン接種が強く推奨されている。 （麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘・B型肝炎・インフルエンザ）								
学習相談･助言体制	教員と打ち合わせの上、いつでも相談に応じます。								
その他注意等	事前学習をしっかり行い実習に臨みましょう。既習の看護技術は「対象者の“安全と安楽”のために」充分練習を重ねてください。また、既習の専門基礎科目・専門科目の知識や技術を活用し、より良い看護を実践できるように努めましょう。 初めての病院実習です。服装は、指定の看護実習用ユニホームとナースシューズを用いてください。								

テキスト	「基礎看護学Ⅰ概論」「基礎看護学Ⅱ看護技術１」で用いたテキスト、参考書、講義資料を活用する。
参考文献	「基礎看護学Ⅰ概論」「基礎看護学Ⅱ看護技術１」で用いたテキスト、参考書、講義資料を活用する。

教育課程： 専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（15）	必修

成人看護学Ⅰ概論

担当教員（担当形態） ：磯崎富美子・新田純子・宮堀真澄（複数）

授業の目的	成人期にある人々の健康問題を支援するために、成人期の特徴および成人期のあらゆる健康状態について総合的に理解し、健康問題にかかわる諸問題の解決に必要な基本的な知識・技術について理解する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	ガイダンス　成人期にある人々の身体的・心理社会的特徴、発達課題の理解　（磯崎・新田・宮堀）	講義 討議	事前：テキスト第１章を読み概要を理解する（90 分）
2	成人期にある人々の生活状況の理解（宮堀）	講義 討議	事前：テキスト第２章を読み概要を理解する（90 分）
3	成人期にある人の健康 （成人保健と今日の健康動向）（磯崎）	講義 討議	事前：テキスト第３章を読み概要を理解する（90 分）
4	成人期にある人の健康 （保健・医療・福祉政策と今日の健康課題）（磯崎）	講義 討議	事前：テキスト第３章の概要を確認及び国民衛生の動向「衛生の主要指標を読み理解する（90 分）
5	成人期にある人の看護の基本 （ケア展開に必要な理論）（新田）	講義	事前；テキスト第４章を読み概要を理解する（90 分）
6	健康状態に応じた看護 （健康の保持・増進の看護、急性期にある人の看護）（磯崎）	講義	事前：テキスト第５章１・２・３を読み概要を理解する（90 分）
7	健康状態に応じた看護 （慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護）（新田）	講義	事前；テキスト第５章４・５を読み概要を理解する（90 分）
8	まとめ・既習内容の確認（磯崎・新田・宮堀）		事前：理解不足の有無を確認（90 分）

到達目標	１．成人期にある人の身体的特徴・発達課題を述べることができる。 ２．衛生統計から見た成人期にある人々の健康問題について、身体的特徴・発達課題から要因や生活への影響について推論できる。 ３．成人期にある人への看護アプローチの基本的な態度を説明できる。 ４．成人期にある人の健康レベルに応じた看護の基本を説明できる。								
ＤＰ要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	筆記試験（90%）、学習態度（10%）で評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 合否発表に併せ、科目全体としての到達状況等を周知する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	レスポンスカードで受け付け、オフィスアワーで回答								
その他注意等	なし								

テキスト	林直子他　成人看護学　成人看護学概論　改訂第２版　南江堂　2015
参考文献	ミルトン・メイヤロフ　；ケアの本質　1987、

教育課程： 専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（15）	必修

老年看護学Ⅰ概論

担当教員（担当形態） ：高田由美・吹田夕起子（オムニバス）

授業の目的	高齢者の健康生活を支援するための基本的な考えや態度を形成するため、老年期の特徴と老年期の健康に影響する要因を多面的に理解する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	老年期とは ライフサイクル、発達課題（高田）	講義	事前：自己の老年観をまとめる（90 分）
2	老年期の身体と心の特徴 加齢による変化、健康障害（高田）	講義	事前：テキスト該当頁を読む（90 分）
3	我が国の現状と課題 社会的変化とその影響（高田）	講義	事前：テキスト該当頁を読む（90 分）
4	老年期における生活の場の特徴 看護を受ける病院、介護施設、自宅、継続看護（吹田）	講義	事前：テキスト該当頁を読む（90 分）
5	高齢者の生活を支える保健医療福祉制度 社会資源の活用、地域包括ケア（吹田）	講義	事前：テキスト該当頁を読む（90 分）
6	老年期の健康と保健 健康づくり、介護予防（高田）	講義	事前：秋田県内での高齢者の健康作りや介護予防の現状を調べる（90 分）
7	老年期に生きる高齢者の生活史と健康歴（高田）	演習	事前：祖父母や近隣の高齢者に対するインタビュー10 分程度実施し、レポートをまとめる（180 分）
8	老年期に生きる高齢者に対する支援 老年看護学の課題と展望（高田）	演習/ 講義	事前：グループワークの発表準備をする（90 分）

到達目標	１．高齢者の身体と心の特徴について説明できる。 ２．高齢者を取り巻く社会の現状について説明できる。 ３．健康寿命の延伸に寄与する支援について列挙できる。 ４．祖父母や親の老後に対する関心を深めることができる。 ５．高齢者が生活する場の特徴について説明できる。									
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4		DP5	
評価方法･基準	テスト 60%、レポート課題 30%、グループワーク発表 10% 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 ① テスト：本科目の合否発表に併せて、クラス全体の到達状況および平均点を周知します。 ② レポート課題（高齢者インタビュー）：評価を行い、全体の傾向についてコメントをします。 ③ グループワーク発表：各グループの発表資料と発表内容、発表態度からコメントをします。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	オフィスアワーで受ける									
その他注意等	冬季休暇中に、祖父母または近隣に住む高齢者へインタビューを実施し、レポートをまとめてもらう予定です。									

テキスト	亀井智子編『新体系　看護学全書　老年看護学①　老年看護学概論・老年保健　第 4 版』、メヂカルフレンド社、2017
参考文献	国民衛生の動向　2017 北川公子編『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　第 9 版』、医学書院、2016 奥野茂代編『老年看護学―概論と老年の実践―　第 5 版』、ヌーヴェルヒロカワ、2015

教育課程： 専門科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（15）	必修

小児看護学Ⅰ概論

担当教員（形態） ：奥山朝子・大高恵美（オムニバス）

授業の目的	小児は成長発達段階の途上にあり、家族や周囲の大人の関わりが重要となる。小児看護の基礎的知識として、小児の発達の特性と小児と家族を取り巻く状況について学ぶ。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1	小児看護の対象と小児看護の目標、役割（奥山） こども観の変遷と小児看護の歴史	講義	事前: 子どもに関する情報の収集（60 分） 事後: 教科書､配布資料を読み振り返る(30 分)
2	子ども権利（奥山） 児童の権利に関する条約 小児看護領域で留意する子どもの権利と必要な看護行為	講義	事前: 児童の権利条約を読む（30 分） 事後:子どもの権利について考察する（60 分）
3	小児看護の対象と小児発達の概念（奥山） 成長と発達･発達の方向性と順序性､成長発達に影響する因子 成長発達の評価	講義	事前：自己の乳児期の身長･体重と発達について表に記入（30 分） 事後：発達評価について資料を読み振り返る（60 分）
4	小児の身体生理（呼吸・循環・体温・消化機能）の特徴（奥山）	講義	事前：胎児循環の図を記載する（60 分） 事後：配布資料を読み振り返る（30 分）
5	小児の身体生理（体液・血液・免疫・神経系）の特徴（大高）	講義	事後：配布資料を読み振り返る（90 分）
6	小児の感覚機能、精神運動機能の発達（大高） 感覚機能、コミュニケーション機能、知的機能、情緒・社会性の発達	講義	事後：ピアジェ･エリクソンの発達理論の復習（90 分）
7	小児を取り巻く法律と政策（大高） 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法など	講義	事前：法律、施策などについて教科書を読む（90 分）
8	学習した内容の課題と展望（奥山・大高）	講義	総復習（90 分）

到達目標	1. 小児の成長発達の特性について述べる事ができる 2. 小児看護における倫理の要点について述べる事ができる 3. 小児と家族を取り巻く状況について述べる事ができる								
DP 要素	DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	試験 100%（100 点満点） 試験の解答について説明する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	レスポンスカードで受け、次回の授業又はオフィースアワーで回答する								
その他注意等	なし								

テキスト	・「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学概論小児臨床看護総論」奈良間美保他 （医学書院）
参考文献	・「子どもの権利条約」小口尚子・福岡鮎美（小学館）1995 ・「＜育てられる者＞から＜育てるもの＞へ」鯨岡峻（ＮＨＫブック）2002 ・他は授業で紹介する

教育課程： 専門科目
資格対応：教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修／選択
2	1（15）	必修

母性看護学Ⅰ概論

担当教員（担当形態） ：志賀くに子（単独）

授業の目的	学生は、リプロダクティブヘルス・ライツと女性のライフサイクルの視点から、「母性」とは何かを解釈し、母性看護実践に必要な基礎的知識を系統立てて創造していくための学習をする。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	母性看護の概念 １）母性とは ２）リプロダクティブヘルス/ライツ	講義	事前：テキスト第１章を読む（30 分） 事後：テキストおよび資料を用いながら振り返る（60 分）
2	母性看護の概念 ３）母性看護における倫理 ４）母性看護の安全と事故予防	講義	事前：テキスト第１章を読む（30 分） 事後：テキストおよび資料を用いながら振り返る（60 分）
3	母性看護の歴史的変遷と現状・動向 １）母性看護の歴史的変遷 ２）母子保健統計からみた動向、関連法規	講義	事前：テキスト第２章を読む（30 分） 事後：母子保健統計と関連法規についてまとめる（60 分）
4	母性看護の対象を取り巻く環境 ライフサイクルと現代女性の健康	講義	事前：テキスト第３章を読む（30 分） 事後：女性の健康と看護についてまとめる（60 分）
5	母性看護の対象理解 ライフサイクルと女性の身体	講義	事前：テキスト第３章を読む（30 分） 事後：女性の健康と看護についてまとめる（60 分）
6	ライフサイクルにおける女性の健康 １）思春期の健康 ２）成熟期の健康	講義 演習	事前：テキスト第 5､6 章を読む（30 分） 事後：リプロダクティブヘルスケアに関する事項をまとめる（60 分）
7	ライフサイクルにおける女性の健康 ３）更年期の健康と看護 ４）老年期の健康と看護 ５）リプロダクティブヘルスケア （１）家族計画 （２）性感染症 （３）人工妊娠中絶　等	講義 演習	事後：リプロダクティブヘルスケアに関する事項の資料作成を行う （90 分）
8	リプロダクティブヘルス/ライツと女性の健康	講義	事後：全回のまとめ（90 分）

到達目標	1. 母性の概念と母性看護の意義及び特性を述べることができる。 2. 母性看護の現状と動向を知り、母性看護の役割と関係づけることができる。 3. ライフサイクルにおける女性の健康と看護について具体的に述べることができる。 4. 人間の性と生殖をめぐる母性看護上の課題を列挙することができる。								
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4		DP5
評価方法･基準	筆記試験 90%、グループ資料 10% 試験結果等については合否発表に併せ、科目全体としての到達状況および平均点等について周知する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	オフィスアワーの活用								
その他注意等									

テキスト	森恵美他、『系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学 1』、医学書院、2017 年
参考文献	大平光子他編集、『母性看護学Ⅰ』、南江堂、2014 年、他適宜提示

案教育課程： 専門科目
資格対応　： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	1（15）	必修

精神看護学Ⅰ概論

担当教員（担当形態）　：山田典子、佐々木三和、熊地美枝（オムニバス）

授業の目的	精神看護学の概念および精神医療・看護の歴史的変遷と、すべてのライフサイクルにおける心の健康に焦点をあて、心の発達や働きを理解した上で、これらに影響を与える人間関係と心の危機状況を理解する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
1	コースガイダンス 精神障害についての基本的な考え方　（山田）	講義	事前：精神の健康と不健康について調べ、自分の考えをまとめておく（90 分）
2	人間のこころと健康　（山田）	講義	事後：これまでの資料に目を通し、「自己取扱説明書」に関するレポートを作成する（180 分） レポート配分：40 点
3	人格の発達と情緒体験　（山田）	講義	
4	ストレスとその対処法　（佐々木）	講義	事前：これまでの自身のストレス対処についてまとめておく（90 分）
5	ライフサイクルとメンタルヘルス（1）グループ討議（佐々木）	演習	学習課題：乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、中年期、老年期の特徴および危機（180 分）
6	ライフサイクルとメンタルヘルス（2）発表　（佐々木）	演習	
7	精神科医療の歴史的変遷　（熊地）	講義	事前：諸外国と日本の精神医療の歴史を調べ、違いを知る(60 分)
8	精神保健医療福祉の現状と課題　（熊地）	講義	事後：秋田県の精神保健医療福祉の制度について調べる（45 分） 事後：資料を読み振り返る（45 分）

到達目標	1　精神保健看護(精神科看護と精神保健)の対象について説明できる。 2　精神の健康とその保持・増進のための基本概念について説明できる。 3　心の病気について説明できる。									
DP要素	DP1	○	DP2	○	DP3		DP4	○	DP5	
評価方法･基準	試験６０％、レポート評価４０％（S ４０点、A ３０点、B ２０点、 C １０点、D　０点） 合否発表に併せ、科目全体としての到達状況の評価や平均点等について周知します。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	授業中の質疑応答を活用してください。また、オフィスアワーの活用およびアポイントをとり、直接相談してください。									
その他注意等	レポートを課すので、授業内容を振り返って理解し考えを深めて、提出してください。									

テキスト	「精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本」出口禎子編（メディカ出版）2013
参考文献	授業で紹介します。

教育課程： 専門科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
2	2(30)	選択

学校保健

担当教員（担当形態） ：小笹典子（単独）

授業の目的	教育課程における学校保健の位置づけ、保健管理、保健教育、組織活動の３領域について理解するとともに、学校における保健活動の意義・目的・進め方について理解する。基本的理論を身につけ、組織的に推進していく実践力を養う。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 (学習課題・取組時間)
1	オリエンテーション（授業目的、内容、進め方、評価等）	講義	（事前）学校保健の領域とは重要性についての考察（30 分）
2	学校教育と学校保健	講義 演習	（事後）教育課程における位置づけの理解（30 分）
3	現代的な健康課題	講義 演習	（事前）中央教育審議会答申健康に関する調査統計結果の把握（30 分）
4	学校保健活動の法的根拠と領域	講義 演習	（事後）学校保健安全法（30 分）
5	学校保健計画	講義 演習	（事前）計画立案のための実態把握（30 分）
6	保健管理と保健教育	講義 演習	（事前）健康診断 学習指導要領（45 分）
7	学校安全計画（安全管理と安全教育）	講義 演習	（事後）生活安全、交通安全、防災安全の進め方（45 分）
8	学校における危機管理	講義 演習	（事前）学校事故事例（45 分） （事後）危機管理レポート作成（60 分）
9	学校環境衛生	講義 演習	（事後）学校環境衛生基準について。検査方法等（30 分）
10	子どもの発育・発達	講義 演習	（事前）子どもの心身と体力、運動能力（30 分）
11	学校給食と食育の推進	講義 演習	（事前）食育とは何か（30 分） （事後）学校給食の事故事例（30 分）
12	感染症対策と性・エイズ教育	講義 演習	（事後）学校における対策 性・エイズ教育の実際（45 分）
13	子どもの人権（いじめ、虐待、体罰等）	講義 演習	（事前）子どもの権利条約（30 分） （事後）観察の視点（30 分）
14	学校保健と組織活動	講義 演習	（事後）学校保健委員会 地域保健員会（45 分）
15	これからの学校保健活動推進上の課題と展望	講義 テスト	（事後）ヘルスプロモーションの視点、総復習（45 分）

到達目標	１．学校保健活動の法的根拠と領域について理解し、説明できる。 ２．関係職員の役割が理解できる。 ３．組織活動について理解し、推進・実践できる基礎を養うことができる。								
ＤＰ要素	DP1		DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5
評価方法･基準	筆記試験 50%、レポート 20%、小テスト 20%、演習参加態度等 10%より総合的に評価する。 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 課題に応じてその都度、解説する。								
履修条件	なし								
学習相談･助言体制	レスポンスカードおよびオフィスアワーにて受け付け、回答する。								
その他注意等	保健師を目指す者も受講することが望ましい。 学校保健活動を推進する上で、養護教諭は唯一の専門職です。保健主事に任命されることもあり、学校保健全般についての知識理解と実践力が求められています。問題意識を持って受講されることを期待します。								

テキスト	・「学校保健」青井陽他　改訂（東山書房）
参考文献	必要に応じて紹介する。

教育課程： 専門科目
資格対応： 教職課程(養教Ⅰ)

セメスター	単位(時間数)	必修/選択
1	1（30）	必修

赤十字救急法

担当教員（担当形態） ：碇谷壽朗（非常勤講師　日本赤十字社秋田県支部）・新沼剛・荻原麻紀・井上忠男（複数）

授業の目的	学生が、日常起こる事故や疾病に関する救急処置の実際を知り、日常生活において自他共に実践できる知識・技術を習得する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習（学習課題・取組時間）
1 2 3 4 5	救急法基礎講習 ・赤十字救急法について ・手当の基本 ・一次救命処置 ・救急法基礎講習学科　実技検定	講義・実習・小ﾃｽﾄ	事後： 手当の手順を復習する（90分）
6 7 8 9 10	救急法救急員養成講習（1） ・赤十字救急法救急員について ・急病 ・けが ・きずの手当	講義・実習	事後： 手当の手順を復習する（90分）
11 12 13 14 15	救急法救急員養成講習（2） ・骨折の手当 ・搬送 ・救護 ・救急員養成講習学科　実技検定	講義・実習・小ﾃｽﾄ	事後： 手当の手順を復習する（90分）

到達目標	学生が傷病者に対して正しい観察と判断ができる。 事故現場で誠実な態度でリーダーシップを発揮できる。 協力者を得て、連絡・通報、二次災害の防止、傷病者の救護、救命・応急の手当て、搬送等を迅速かつ適切に行うことができる。										
DP要素	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	○	
評価方法･基準	・全時間出席した者を対象に学科検定並びに実技検定を行い、成績評価をする。 ・試験成績100%（100点満点） 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 ・合否発表に併せ、科目全体としての到達状況の評価等について周知します。										
履修条件	なし										
学習相談･助言体制	オフィスアワーを活用										
その他注意等	目の前で家族や友人が倒れたり、大ケガをした場合、自分は何ができるのか、まずはそれを顧みて、実際の事故や災害の現場で適切な行動ができる人になるよう、授業に臨むこと。										

テキスト	「赤十字救急法基礎講習教本」日赤支部配付　「赤十字救急法教本」日赤支部配付 「救急法教材セット」日赤支部配付
参考文献	なし

教育課程：専門科目
資格対応：

セメスター	単位(時間)数	必修/選択
1	1（15）	選択

赤十字ボランティア演習

担当教員（担当形態）　：及川真一、新沼剛、荻原麻紀、佐藤美恵子、鈴木美里、井上忠男（複数）

授業の目的	実践を通して、ボランティアに関する理解をより深めることが本講義の目的である。ボランティア活動の意義や役割を踏まえ、災害という特殊な環境において、ボランティアに求められる知識と適切な心構えを身につけ専門性を発揮できる能力を涵養する。

授業内容

回	授業内容（担当）	授業方法	事前・事後学習 （学習課題・取組時間）
	この授業は，日本赤十字秋田看護大学の体育館とグランドを活用して集中的に行う。授業は事前説明１回と７回の体験学習（一泊二日）で構成される。		
1	ガイダンス・赤十字ボランティアと赤十字災害ボランティア ・意義、必要性、心構え等について	講義	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
2	日本の災害と赤十字救護活動の実際	講義	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
3	赤十字災害ボランティア活動を学ぶ ～赤十字災害ボランティア活動について～	講義	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
4	看護ボランティアとしての役割と機能を学ぶ	講義	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
5	災害時の避難所設置と運営を学ぶ（1） 避難所の定義、避難所の設置・開設・運営、運営主体、福祉避難所について	演習	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
6	災害時の避難所設置と運営を学ぶ（2） 避難所設営（演習）	演習	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
7	救護に必要な技術を学ぶ（1） ～東日本大震災災害ボランティア活動を通じて～	演習	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）
8	救護に必要な技術を学ぶ（2） ～熊本地震災害ボランティア活動を通じて～	演習	事前：配付資料を読む（30 分） 事後：配付資料・振り返り（60 分）

到達目標	1.赤十字ボランティア活動の意義、役割を説明することができる。 2.看護ボランティアの役割・機能を説明することができる。 3.他者と協調し、円滑な避難所運営（演習）を実施できる。 4.救護に必要な技術（テント設営・炊き出し）を身につける。									
DP要素	DP1	○	DP2		DP3		DP4		DP5	○
評価方法･基準	講義への参加度 100％（講義中にレポートの提出を求める可能性がある） 「課題（試験、レポート等）に対するフィードバック」 レポートについては、コメントを付して返却します。									
履修条件	なし									
学習相談･助言体制	オフィスアワー時に担当教員の研究室にて対応します。									
その他注意等	・ライフラインが途絶えた状況設定となっていますので、動きやすい服装で参加してください。 ・宿泊は体育館やテント泊となります。									

テキスト	適宜、資料配布する。
参考文献	及川真一『防災キャンプのすすめ』　秋田魁新報社　2016